

平成14年度厚生労働科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）  
分担研究報告書

薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（2002年）

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センタ - 精神保健研究所薬物依存研究部長  
研究協力者 畢 穎 同上（流動研究員） 鈴木紀美子 同上（研究助手）  
尾崎米厚 鳥取大学医学部 環境予防医学 助教授  
勝野眞吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

研究要旨 中学生における薬物乱用の広がり把握し、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するため、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。対象は層別1段集落抽出法により選ばれた全国210校の全生徒である。その結果、149校（対象校の71.0%）より、62,900人（対象校210校の全生徒の57.7%）の回答を得た。有効回答数は62,813人（対象校210校の全生徒の57.6%）である。その結果、以下のような結論を得た。有機溶剤乱用の生涯経験率は、男子では1.4%（1年生1.3%、2年生1.4%、3年生1.5%）、女子では1.0%（1年生1.0%、2年生1.1%、3年生1.0%）、全体では1.2%（1年生1.2%、2年生1.3%、3年生1.3%）であった。この結果は、男女合わせた全体では、第1回全国調査（1996年）の結果よりは0.1%高い値であるが、1998年及び2000年調査よりは0.1%低い値であった。ただし、男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後が危惧される結果であった。有機溶剤乱用の目撃率に関しては性別に関わらず、1996年以降、着実に低下しており、「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから着実に減少していた。また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は男子では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。以上より、有機溶剤乱用の勢いは、着実に弱まっていると考えられるが、女子における乱用の拡大傾向が危惧される結果であった。有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が強いことが再確認された。その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられた。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の共有時間が少ない傾向がうかがわれた。結局、有機溶剤経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。これまでの一連の本調査では、薬物乱用による医学的害知識は、往々にして、有機溶剤乱用経験者群の方が知っているという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多い項目が現れ、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性が示唆された。しかし、有機溶剤乱用による精神病に関する周知率以外は、有機溶剤についても、大麻・覚せい剤についても害知識の周知率はそもそも高いとは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。大麻の生涯経験率は、男子で0.6%、女子で0.4%、全体で0.5%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.5%、女子で0.4%、全体で0.4%であった。大麻に関しては男女の全体で2000年に比べて0.1%の上昇であり、覚せい剤に関しては、2000年と同じ結果であることを意味する。男子では大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は2000年と変化がなかったが、女子では両薬物に関して共に増加していた。有機溶剤の場合と同様に、女子における大麻・覚せい剤乱用の今後が危惧される結果であった。大麻、覚せい剤の入手可能性は1998年以降、着実に増加していた。ここでも女子における大麻・覚せい剤の入手可能性の増加が特徴的であり、今後が危惧される結果であった。また、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が大麻でも覚せい剤でも50%を超えていたが、有機溶剤乱用経験者群では、大麻

でも覚せい剤でも男子で47～48%、女子で56%の者が入手可能を選択していた。わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用するということは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を示唆していた。喫煙については非喫煙群全体の10.2%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の3%に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の2%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。また、有機溶剤乱用の経験と、大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、また、喫煙経験と有機溶剤乱用経験との間にも強い結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

(なお、本報告書から、有機溶剤、大麻、覚せい剤乱用の生涯経験率、1年経験率、目撃率、乱用者周知率、生涯被誘惑率については、「無回答」を除いて計算し直した値を文章上は採用することにした。その結果、表での値と異なることがある。)

## A. 研究目的

第3次覚せい剤乱用期にある2000年、薬物乱用により精神障害をきたして精神病院を受診した患者のうち、約20%は有機溶剤乱用が原因であり、約58%は覚せい剤乱用が原因であった<sup>1)</sup>。ただし、覚せい剤乱用が原因であった者の33%は、覚せい剤乱用開始以前に有機溶剤の乱用を経験していた<sup>1)</sup>。この割合は、第2次覚せい剤乱用期での割合と同じである<sup>2)</sup>。このことは、覚せい剤の入手可能性の高まりの中で、有機溶剤乱用の経験なしに、いきなり覚せい剤乱用を始める若者の増加が推定される第3次覚せい剤乱用期においても、有機溶剤乱用が依然として重要な役割を担っていることを示唆している。

すなわち、わが国では、飲酒・喫煙を除けば、有機溶剤の乱用が精神医療の面からみて、その後の覚せい剤乱用への門を開く「ゲイトウェイ・ドラッグ」<sup>3)</sup>としての役割を相変わらず担っている可能性が高いと推定される。

この有機溶剤乱用は、14歳から16歳で開始されることが多く<sup>4)</sup>、予防対策上は中学生が重要である。したがって、中学生における有機溶剤乱用(「シンナー遊び」)の実態を把握し、有機溶剤乱用に関連するハイリスク・ファクターを特定することは、わが国における薬物乱用防止対策上、不可欠である。

同時に、中学生における喫煙、飲酒は、有機溶剤乱用と強い関係を有していると推定され<sup>3)5)6)7)8)</sup>、中学生における喫煙と飲酒の一部が有機溶剤乱用開始ないしは継続への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高い<sup>3)</sup>。

以上の考えから、平成14年度、平成8年度に初めて実施した、「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査」<sup>10)</sup>の第4回目調査を実施し、薬物乱用防止対策の基礎資料に供することを目的とした。

## B. 研究方法

調査は、下記方法によって選ばれた対象校で、原則として、2002年10月中(一部11月～12月中)に、全生徒による自記式調査として実施された。

対象校の抽出方法には層別1段集落抽出法を用いた。抽出に用いたデータベースは、2002年版の全国学校総覧<sup>11)</sup>である。どの都道府県からも最低1校は抽出されるようにするために、都道府県を層とし、中学生数に比例して都道府県毎に対象校の抽出を行った。すなわち、中学生数の最も少ない鳥取県での調査校数を1とし、その他の都道府県での調査校数は、鳥取県の生徒数との比に従って、切り上げで決定し、その後、各都道府県での対象校数を2校以上確保するために、鳥取県での調査対象校数を2に変更した。

対象校の抽出は、各都道府県毎に、上記の手続きで決定された数の中学校を全中学校から無作為で抽出した。その際、データベースとして使用した全国学校総覧<sup>11)</sup>が、2001年版から「国公立編」「私立編」の2冊で構成されるようになったため、都道府県毎に国公立中学校数と私立中学校数との割合を算出し、その割合に基づいて国公立中学校数と私立中学校数とを決め、それぞれ、学校毎の生徒数に比例して抽出確率を決める確率抽出法を用い、実際の抽出には乱数を使用した。

本調査では、抽出された学校の全生徒を調査対象としたので、層別1段集落抽出法と呼ぶ。この場合の集落とは学校を指し、層は都道府県と国公立・私立の2種類があることになる。

この操作により、全国の中学校から210校（想定109,043人）が選ばれた。

調査用紙には氏名等個人を特定できる項目はなく、学年、性別、日常生活の規則正しさ、学校生活、家庭生活、友人関係、喫煙について、飲酒について、「シンナ - 遊び」について、大麻乱用について、覚せい剤乱用について、薬物の入手しやすさについての全51項目から構成されている。この調査項目は2000年調査時のものと同じである。

調査用紙は教師によって生徒に配られた。記載

の終わった生徒は、同時に配られた個人用封筒に調査用紙を入れ、封をし、あらかじめ用意されたクラス毎の回収用封筒に個人用封筒を投函した。各学校はクラス用回収封筒をとりまとめて当研究所に郵送し、各封筒は当研究所にて初めて開封された。

210校（国立2校、公立195校、私立13校）中、調査を実施していただけた中学校は149校（国立1校、公立142校、私立6校：対象校の71.0%）であった。そのうちの14校については、学年・クラスを限定した実施であった。その内訳は、各学年1クラスずつのみの実施5校、1年生のみの実施2校、3年生のみの実施2校、2年生1クラス以外全生徒実施1校、3年生の半分のクラスと1～2年生の全クラ

表1 対象校の分布と回答状況

対象校	回答校	実施率(%)	対象校	回答校	実施率(%)		
北海道	9	4	44.4	京都	4	2	50.0
青森	3	3	100.0	大阪	12	4	33.3
岩手	3	2	66.7	兵庫	9	4	44.4
宮城	4	4	100.0	奈良	3	0	0
秋田	2	0	0	和歌山	2	1	50.0
山形	2	2	100.0	鳥取	2	2	100.0
福島	4	4	100.0	島根	2	2	100.0
茨城	5	5	100.0	岡山	3	2	66.7
栃木	4	4	100.0	広島	5	0	0
群馬	4	3	75.0	山口	3	2	66.7
埼玉	10	7	70.0	徳島	2	2	100.0
千葉	9	7	77.8	香川	2	2	100.0
東京	15	9	60.0	愛媛	3	3	100.0
神奈川	11	7	63.6	高知	2	2	100.0
新潟	4	4	100.0	福岡	8	7	87.5
富山	2	2	100.0	佐賀	2	1	50.0
石川	2	2	100.0	長崎	3	3	100.0
福井	2	2	100.0	熊本	4	3	75.0
山梨	2	2	100.0	大分	2	2	100.0
長野	4	4	100.0	宮崎	2	2	100.0
岐阜	4	2	50.0	鹿児島	4	3	75.0
静岡	6	6	100.0	沖縄	3	2	66.7
愛知	11	10	90.9				
三重	3	2	66.7	全体	210	149	71.0
滋賀	3	1	33.3				

スでの実施1校、1年生と3年生のみの実施1校、1年生1クラスと2年生の2クラスのみの実施1校、3年生1クラスのみでの実施1校であった。

以上の結果、62,900人（想定生徒数の57.7%。ただし、全国学校要覧による生徒数と実際の生徒数は一致しないため、正確な%は不明である）の調査用紙が回収されたが、うち87通は、明らかな記載上の不備、または記載項目が全51問の50%を満たしていなかったため無効とした。したがって、有効回答は62,813人（想定生徒数の57.6%）である。

また、中学生における有機溶剤乱用の生涯経験率は、昼夜人口比の低い地域で高く、喫煙・飲酒の生涯経験率は持ち家率の高いところで高いことが指摘されており<sup>19)</sup>、それなりの地域格差の存在が推定される。そこで、今回の調査が全国の中学生を対象にしながらも、全国を代表していない可能性もあるため、都道府県毎の回答状況を表1に示した。表1の実施状況が今回の調査結果にどのような影響を及ぼしているかは不明であるが、本調査の限界として、表1を見ておく必要がある。

有効回答の内訳は表2の通りである。男子32,302人、女子30,462人、性別不明者49人の計62,813人である。

その結果、以下の各表では、全体は男性+女性+性別不明者になっている。結果の検定に当たっては、項目毎に回答の「無回答」を除外し、それぞれの項目毎に当該薬物の経験者群（以下、経験者群）と非経験者群（以下、非経験者群）とについて<sup>2)</sup>検定をおこなった。

## C. 研究結果

### 1. 「シンナ - 遊び」について

#### 1. 有機溶剤乱用の広がりについて

##### (1) 「シンナ - 遊び」の生涯経験率について

表2 対象の内訳

	1年		2年		3年		全体	
男性	10707	(51.9)	10492	(51.1)	11103	(51.3)	32302	(51.4)
女性	9910	(48.0)	10039	(48.9)	10513	(48.6)	30462	(48.5)
無回答	13	(.1)	13	(.1)	23	(.1)	49	(.1)
全体	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)

性別・学年別の「シンナ - 遊び」の生涯経験率（これまでに1回でも「シンナー遊び」をしたことがある者の率）は表3の通りである。

生涯経験率は男子で1.4%（1年生1.3%、2年生1.4%、3年生1.5%）女子で1.0%（1年生1.0%、2年生1.1%、3年生1.0%）であり、全体では1.2%（1年生1.1%、2年生1.3%、3年生1.3%）であった。

また、男子の生涯経験率は、学年が進むにしたがって有意に( $P < 0.05$ )高くなる傾向が伺われた。女子では2年生で最も高い結果となったが、3年生での結果は1年生よりは高かった。これまでの1996年調査<sup>10)</sup>、1998年調査<sup>13)</sup>、2000調査<sup>20)</sup>では、男女ともに学年と共に生涯経験率が高くなる傾向が認められたが、今回の調査では、女子では2年生で高くなることが示唆された。

なお、生涯経験率の推移については、考察で論じる。

##### (2) 「シンナ - 遊び」の1年経験率について

この1年間での「シンナ - 遊び」の経験率（1年経験率）は表4の通りである。

男子で0.9%（1年生0.8%、2年生0.9%、3年生0.9%）女子で0.7%（1年生0.7%、2年生0.8%、3年生0.7%）であり、全体では0.8%（1年生0.7%、2年生0.8%、3年生0.8%）であった。

男性では学年が進むにしたがって高くなり、女子では2年生で高くなる傾向が伺われた。

##### (3) 「シンナー遊び」の目撃について

「あなたは、『シンナー遊び』をしているところを実際に見たことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表5に示した。

男女ともに約7.4%の生徒が実際に見たことがあるという結果であった。同時に、男女ともに、学年が進むにつれて見たことのある者が有意 ( $P < 0.$

01) に増えていく傾向が示唆された。

なお、この目撃率の推移については考察で論じる。

(4) 身近での「シンナー遊び」経験者の存在について

「あなたの身近に、『シンナー遊び』をしている人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表6に示した。

男女ともに、約3~4%の者が「いる」と答えており、学年が進むに従って、「いる」と答えた者の割合が有意に ( $P < 0.01$ ) 高くなっていくことが示唆された。しかも、男子よりも女子に多い傾向は以前の同種の調査と同じであった<sup>(10)(13)(20)</sup>。

なお、上記の年次推移については考察で論じる。

(5) 「シンナー遊び」への誘惑について

「あなたは、『シンナー遊び』に誘われたことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表7に示した。

男女ともに1.6%の者が誘われたことが「ある」と答えており、男女ともに、学年が進むにつれて、誘われたことのある者の率が有意に ( $P < 0.01$ ) 高くなる傾向が伺われた。

なお、この誘われ経験率の推移については、考察で論じる。

2. 有機溶剤乱用に対する捉え方

(1) 「シンナー遊び」への関心について

「『シンナー遊び』について、あなたの気持ちはどれに最も近いですか？」との問いに対する未経験者群での回答の分布を表8に示した。

男女ともに、回答の分布には学年間で有意差 ( $P < 0.01$ ) が認められるが、「関心がない」を選択した者は、男女ともに3年生で最も多く、「好奇心」は2年生で頭打ちになる傾向が示唆された。

なお、表8は未経験者についてだけの分析であるが、有機溶剤未経験者の中には、本問で「(シンナー遊びの)経験がある」を選択した者がおり、本調査の「正確さ」を見るために、あえてその結果を明らかにした。

(2) 「シンナー遊び」と法の遵守について

「『シンナー遊び』は法律で禁じられています。その『シンナー遊び』をすることをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を「シンナー遊び」の経験の有無を軸にして表9に示した。

表3 これまでに1回でも「シンナー遊び」を経験したことのある率（生涯経験率）

		1年		2年		3年		全体	
男性	経験なし	10473	(97.8)	10261	(97.8)	10864	(97.8)	31598	(97.8)
	経験あり	137	(1.3)	150	(1.4)	163	(1.5)	450	(1.4)
	無回答	97	(.9)	81	(.8)	76	(.7)	254	(.8)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 1.515, df = 2, p = .469$ )									
女性	経験なし	9763	(98.5)	9878	(98.4)	10362	(98.6)	30003	(98.5)
	経験あり	94	(.9)	113	(1.1)	107	(1.0)	314	(1.0)
	無回答	53	(.5)	48	(.5)	44	(.4)	145	(.5)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 1.552, df = 2, p = .460$ )									
全体	経験なし	20246	(98.1)	20148	(98.1)	21248	(98.2)	61642	(98.1)
	経験あり	234	(1.1)	266	(1.3)	271	(1.3)	771	(1.2)
	無回答	150	(.7)	130	(.6)	120	(.6)	400	(.6)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 2.313, df = 2, p = .315$ )									

回答の分布には、男女共に有意差 ( $P<0.01$ ) が認められ、未経験者群では男女共に約95%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだのに対して、経験者群では、男女共に「法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う」「法律を守る必要は全然ないと思う」と答えた者が42～48%と乖離した。

(3) 「シンナー遊び」と法規制の必要性について

「法律で『シンナー遊び』を禁止しているのどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表10に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $P<0.01$ ) が認められ、非経験者群では、男女ともに約90%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、「麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと思う」「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」と答えた者が相当数いた(男子で44.2%、女子で30.7%)。

(4) 「シンナー遊び」をしている者への見方  
(その1)

「『シンナー遊び』をしている人について、どう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表11に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $P<0.01$ ) が認められ、非経験者群では男女共に約94～95%の者が「自分には無関係の人だと思う」を選んだのに対して、経験者群では「『シンナー遊び』をする気持ちが理解できる気がする」ないしは「親しみをを感じる」を選んだ者が相当数いた(男子で44.2%、女子で52.9%)。

(5) 「シンナー遊び」をしている者への見方  
(その2)

「『シンナー遊び』をしている人と親しくなる事について、どう考えますか？」との問いに対する回答の分布を表12に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $P<0.01$ ) が認められた。非経験者群では「親しくなりたくない」を選んだ者が、男女共に約70%だったのに対して、経験者群では男女共に「すでに親しい」を選んだ者が22～24%にのぼった。

この結果は、表11とあわせて、「シンナー遊び」をしている者に対する見方が、非経験者群、経験者群で乖離していることを示唆している。

表4 この1年間に「シンナー遊び」を1回でも経験したことがある者の率(一年経験率)

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	10174	(95.0)	9987	(95.2)	10685	(96.2)	30846	(95.5)
	ある	79	(.7)	88	(.8)	102	(.9)	269	(.8)
	無回答	454	(4.2)	417	(4.0)	316	(2.8)	1187	(3.7)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 1.894$ , $df = 2$ , $p = .388$ )									
女性	ない	9529	(96.2)	9679	(96.4)	10221	(97.2)	29429	(96.6)
	ある	63	(.6)	79	(.8)	67	(.6)	209	(.7)
	無回答	318	(3.2)	281	(2.8)	225	(2.1)	824	(2.7)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 2.267$ , $df = 2$ , $p = .322$ )									
全体	ない	19713	(95.6)	19677	(95.8)	20928	(96.7)	60318	(96.0)
	ある	144	(.7)	168	(.8)	170	(.8)	482	(.8)
	無回答	773	(3.7)	699	(3.4)	541	(2.5)	2013	(3.2)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1.929$ , $df = 2$ , $p = .381$ )									

(6) 「シンナー遊び」をする理由について

『シンナー遊び』をしている人たちは、どうして『シンナー遊び』をするのだと思いますか？』との問いに対する回答の分布を表13に示した。

非経験者群では、男女ともに「本人に問題があるから」ないしは「家庭に問題があるから」が上位2つを占めたが、女子では「家庭に問題があるから」を選んだ者の多さが目立った。

一方、経験者群男子では、「本人に問題があるから」「家庭に問題があるから」が上位2つを占めたが、女子では「家庭に問題があるから」「学校に問題があるから」が上位2つとなった。

女子では、有機溶剤乱用の経験に関わらず、「家庭に問題があるから」を重要視する傾向が男子よりは強い傾向が伺われた。

表5 「シンナー遊び」を実際に見たことがありますか？

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	9966	(93.1)	9656	(92.0)	10151	(91.4)	29773	(92.2)
	ある	674	(6.3)	797	(7.6)	920	(8.3)	2391	(7.4)
	無回答	67	(.6)	39	(.4)	32	(.3)	138	(.4)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 31.588$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
女性	ない	9210	(92.9)	9278	(92.4)	9666	(91.9)	28154	(92.4)
	ある	675	(6.8)	736	(7.3)	833	(7.9)	2244	(7.4)
	無回答	25	(.3)	25	(.2)	14	(.1)	64	(.2)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 9.125$ , $df = 2$ , $p = .010$ )									
全体	ない	19185	(93.0)	18942	(92.2)	19837	(91.7)	57964	(92.3)
	ある	1353	(6.6)	1538	(7.5)	1756	(8.1)	4647	(7.4)
	無回答	92	(.4)	64	(.3)	46	(.2)	202	(.3)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 36.884$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									

表6 身近に「シンナー遊び」をしている人がいますか？

		1年		2年		3年		全体	
男性	いない	10371	(96.9)	10070	(96.0)	10650	(95.9)	31091	(96.3)
	いる	253	(2.4)	360	(3.4)	406	(3.7)	1019	(3.2)
	無回答	83	(.8)	62	(.6)	47	(.4)	192	(.6)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 33.267$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
女性	いない	9544	(96.3)	9561	(95.2)	9992	(95.0)	29097	(95.5)
	いる	326	(3.3)	441	(4.4)	496	(4.7)	1263	(4.1)
	無回答	40	(.4)	37	(.4)	25	(.2)	102	(.3)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 28.264$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
全体	いない	19925	(96.6)	19639	(95.6)	20664	(95.5)	60228	(95.9)
	いる	581	(2.8)	805	(3.9)	903	(4.2)	2289	(3.6)
	無回答	124	(.6)	100	(.5)	72	(.3)	296	(.5)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 61.173$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									

### 3. 有機溶剤乱用による医学的害について

(1) 「シンナー」吸引による急性中毒死について「『シンナー遊び』で死亡すること（急性中毒死）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表14に示した。

これまでの調査では、男女ともに、経験者群の方が「知っている」を選択した者の割合が高かったが<sup>(10)(13)(20)</sup>、今回の調査では、男子では「知っている」を選択した者が非経験者群の方が多かった

表7 「シンナー遊び」に誘われた経験

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	10175	(95.0)	9895	(94.3)	10458	(94.2)	30528	(94.5)
	ある	115	(1.1)	174	(1.7)	202	(1.8)	491	(1.5)
	無回答	417	(3.9)	423	(4.0)	443	(4.0)	1283	(4.0)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 22.326, df = 2, p = .000$ )									
女性	ない	9323	(94.1)	9351	(93.1)	9782	(93.0)	28456	(93.4)
	ある	123	(1.2)	158	(1.6)	185	(1.8)	466	(1.5)
	無回答	464	(4.7)	530	(5.3)	546	(5.2)	1540	(5.1)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 9.615, df = 2, p = .000$ )									
全体	ない	19507	(94.6)	19257	(93.7)	20261	(93.6)	59025	(94.0)
	ある	240	(1.2)	334	(1.6)	389	(1.8)	963	(1.5)
	無回答	883	(4.3)	953	(4.6)	989	(4.6)	2825	(4.5)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 30.376, df = 2, p = .000$ )									

表8 「シンナー遊び」についての気持ち（未経験者についてのみ）

		1年		2年		3年		全体	
男性	関心がない	9657	(92.2)	9481	(92.4)	10195	(93.8)	29333	(92.8)
	見てみたい	616	(5.9)	596	(5.8)	496	(4.6)	1708	(5.4)
	試してみたい	90	(.9)	95	(.9)	107	(1.0)	292	(.9)
	経験がある	4	(.0)	5	(.0)	6	(.1)	15	(.0)
	無回答	106	(1.0)	84	(.8)	60	(.6)	250	(.8)
	合計	10473	(100.0)	10261	(100.0)	10864	(100.0)	31598	(100.0)
( $\chi^2 = 24.598, df = 6, p = .000$ )									
女性	関心がない	8752	(89.6)	8797	(89.1)	9437	(91.1)	26986	(89.9)
	見てみたい	821	(8.4)	897	(9.1)	730	(7.0)	2448	(8.2)
	試してみたい	107	(1.1)	112	(1.1)	125	(1.2)	344	(1.1)
	経験がある	5	(.1)	3	(.0)	2	(.0)	10	(.0)
	無回答	78	(.8)	69	(.7)	68	(.7)	215	(.7)
	合計	9763	(100.0)	9878	(100.0)	10362	(100.0)	30003	(100.0)
( $\chi^2 = 31.336, df = 6, p = .000$ )									
全体	関心がない	18417	(91.0)	18284	(90.7)	19650	(92.5)	56351	(91.4)
	見てみたい	1439	(7.1)	1495	(7.4)	1227	(5.8)	4161	(6.8)
	試してみたい	197	(1.0)	207	(1.0)	234	(1.1)	638	(1.0)
	経験がある	9	(.0)	8	(.0)	8	(.0)	25	(.0)
	無回答	184	(.9)	154	(.8)	129	(.6)	467	(.8)
	合計	20246	(100.0)	20148	(100.0)	21248	(100.0)	61642	(100.0)
( $\chi^2 = 52.890, df = 6, p = .000$ )									

ことは特筆に値する。

しかし、女子では相変わらず、「知っている」と答えた者は経験者群の方で多く、男女を問わず、「知らない」と答えた者が未だに少ないとは言えない結果であり、両群での統計学的有意差もないことから、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれるところである。

(2) 「シンナー」吸引の繰り返しによる歯の腐食について

「『シンナー遊び』を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすことを知っていますか？」との問い

に対する回答の分布を表15に示した。

これまでの調査では、男女ともに、経験者群の方が「知っている」を選択した者の割合が高かったが<sup>(10)(13)(20)</sup>、今回の調査では、男子では「知っている」を選択した者が非経験者群の方が多かったことは、急性中毒死と同様である。

しかし、女子及び全体ではこれまで同様「知っている」を選んだ者は経験者群の方が多く、そもそも、両群で有意差がないことから、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれるところである。

表9 「シンナー遊び」についてどう思いますか？（法の遵守）

	生涯シンナー経験						全体	
	経験なし		経験あり		無回答			
男性	法律で禁止されているからすべきではない	30123 (95.3)	262 (58.2)	135 (53.1)	30520 (94.5)			
	法律で禁止されてはいるが少々ならかまわない	777 (2.5)	92 (20.4)	10 (3.9)	879 (2.7)			
	法律で禁止されてはいるが守る必要はない	603 (1.9)	95 (21.1)	6 (2.4)	704 (2.2)			
	無回答	95 (.3)	1 (.2)	103 (40.6)	199 (.6)			
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)			
						( $\chi^2 = 1343.888$ , df= 2, p= .000)		
女性	法律で禁止されているからすべきではない	28549 (95.2)	161 (51.3)	91 (62.8)	28801 (94.5)			
	法律で禁止されてはいるが少々ならかまわない	1033 (3.4)	83 (26.4)	4 (2.8)	1120 (3.7)			
	法律で禁止されてはいるが守る必要はない	335 (1.1)	67 (21.3)	4 (2.8)	406 (1.3)			
	無回答	86 (.3)	3 (1.0)	46 (31.7)	135 (.4)			
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)			
						( $\chi^2 = 1477.296$ , df= 2, p= .000)		
全体	法律で禁止されているからすべきではない	58704 (95.2)	425 (55.1)	226 (56.5)	59355 (94.5)			
	法律で禁止されてはいるが少々ならかまわない	1817 (2.9)	176 (22.8)	14 (3.5)	2007 (3.2)			
	法律で禁止されてはいるが守る必要はない	940 (1.5)	165 (21.4)	11 (2.8)	1116 (1.8)			
	無回答	181 (.3)	5 (.6)	149 (37.3)	335 (.5)			
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)			
						( $\chi^2 = 2780.492$ , df= 2, p= .000)		

表10 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？（法規制の必要性）

	生涯シンナー経験						全体	
	経験なし		経験あり		無回答			
男性	当然だと思う	28481 (90.1)	238 (52.9)	133 (52.4)	28852 (893)			
	仕方がないことだと思う	1787 (5.7)	73 (16.2)	10 (3.9)	1870 (5.8)			
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	201 (.6)	40 (8.9)	4 (1.6)	245 (.8)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1061 (3.4)	98 (21.8)	7 (2.8)	1166 (3.6)			
	無回答	68 (.2)	1 (.2)	100 (39.4)	169 (.5)			
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)			
( $\chi^2 = 972.215, df = 3, p = .000$ )								
女性	当然だと思う	26779 (89.3)	143 (45.5)	82 (56.6)	27004 (88.6)			
	仕方がないことだと思う	2029 (6.8)	44 (14.0)	9 (6.2)	2082 (6.8)			
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	256 (.9)	37 (11.8)	1 (.7)	294 (1.0)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	873 (2.9)	88 (28.0)	10 (6.9)	971 (3.2)			
	無回答	66 (.2)	2 (.6)	43 (29.7)	111 (.4)			
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)			
( $\chi^2 = 1097.767, df = 3, p = .000$ )								
全体	当然だと思う	55292 (89.7)	383 (49.7)	215 (53.8)	55890 (89.0)			
	仕方がないことだと思う	3821 (6.2)	117 (15.2)	19 (4.8)	3957 (6.3)			
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	458 (.7)	77 (10.0)	5 (1.3)	540 (.9)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1937 (3.1)	190 (24.6)	18 (4.5)	2145 (3.4)			
	無回答	134 (.2)	4 (.5)	143 (35.8)	281 (.4)			
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)			
( $\chi^2 = 2032.015, df = 3, p = .000$ )								

表11 「シンナー遊び」をしている人についてどう思いますか？

	生涯シンナー経験						全体	
	経験なし		経験あり		無回答			
男性	自分には無関係の人	30152 (95.4)	239 (53.1)	140 (55.1)	30531 (94.5)			
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	1123 (3.6)	117 (26.0)	8 (3.1)	1248 (3.9)			
	親しみを感じる	163 (.5)	82 (18.2)	3 (1.2)	248 (.8)			
	無回答	160 (.5)	12 (2.7)	103 (40.6)	275 (.9)			
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)			
( $\chi^2 = 2534.361, df = 2, p = .000$ )								
女性	自分には無関係の人	28108 (93.7)	141 (44.9)	86 (59.3)	28335 (93.0)			
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	1659 (5.5)	111 (35.4)	11 (7.6)	1781 (5.8)			
	親しみを感じる	69 (.2)	55 (17.5)	1 (.7)	125 (.4)			
	無回答	167 (.6)	7 (2.2)	47 (32.4)	221 (.7)			
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)			
( $\chi^2 = 2870.059, df = 2, p = .000$ )								
全体	自分には無関係の人	58298 (94.6)	383 (49.7)	226 (56.5)	58907 (93.8)			
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	2785 (4.5)	228 (29.6)	19 (4.8)	3032 (4.8)			
	親しみを感じる	232 (.4)	141 (18.3)	5 (1.3)	378 (.6)			
	無回答	327 (.5)	19 (2.5)	150 (37.5)	496 (.8)			
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)			
( $\chi^2 = 5342.244, df = 2, p = .000$ )								

表12 「シンナー遊び」をしている人と親しくなることについてどう思いますか？

	生涯シンナー経験			全体	
	経験なし	経験あり	無回答		
男性 親しくなりたくない	23669 (74.9)	165 (36.7)	95 (37.4)	23929 (74.1)	
シンナー遊びだけで決めたくない	7638 (24.2)	174 (38.7)	55 (21.7)	7867 (24.4)	
すでに親しい	155 (.5)	101 (22.4)	1 (.4)	257 (.8)	
無回答	136 (.4)	10 (2.2)	103 (40.6)	249 (.8)	
合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	( $\chi^2 = 2852.293$ , df= 2, p= .000)
女性 親しくなりたくない	20417 (68.0)	79 (25.2)	58 (40.0)	20554 (67.5)	
シンナー遊びだけで決めたくない	9306 (31.0)	156 (49.7)	41 (28.3)	9503 (31.2)	
すでに親しい	173 (.6)	74 (23.6)	2 (1.4)	249 (.8)	
無回答	107 (.4)	5 (1.6)	44 (30.3)	156 (.5)	
合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	( $\chi^2 = 2161.248$ , df= 2, p= .000)
全体 親しくなりたくない	44114 (71.6)	246 (31.9)	153 (38.3)	44513 (70.9)	
シンナー遊びだけで決めたくない	16957 (27.5)	331 (42.9)	97 (24.3)	17385 (27.7)	
すでに親しい	328 (.5)	179 (23.2)	3 (.8)	510 (.8)	
無回答	243 (.4)	15 (1.9)	147 (36.8)	405 (.6)	
合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	( $\chi^2 = 5135.455$ , df= 2, p= .000)

表13 どうして「シンナー遊び」をするのだと思いますか？（複数回答）

	生涯シンナー経験			全体	
	経験なし	経験あり	無回答		
男性 本人に問題	21526 (68.1)	247 (54.9)	149 (58.7)	21922 (67.9)	( $\chi^2 = 30.190$ , df=1, p=.000)
家庭に問題	16453 (52.1)	203 (45.1)	119 (46.9)	16775 (51.9)	( $\chi^2 = 6.475$ , df=1, p=.011)
学校に問題	9142 (28.9)	161 (35.8)	71 (28.0)	9374 (29.0)	( $\chi^2 = 12.134$ , df=1, p=.000)
社会に問題	10135 (32.1)	153 (34.0)	80 (31.5)	10368 (32.1)	( $\chi^2 = 1.363$ , df=1, p=.243)
無回答	370 (1.2)	14 (3.1)	20 (7.9)	404 (1.3)	
合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
女性 本人に問題	18127 (60.4)	143 (45.5)	73 (50.3)	18343 (60.2)	( $\chi^2 = 26.793$ , df=1, p=.000)
家庭に問題	21166 (70.5)	206 (65.6)	88 (60.7)	21460 (70.4)	( $\chi^2 = 2.625$ , df=1, p=.105)
学校に問題	12803 (42.7)	167 (53.2)	52 (35.9)	13022 (42.7)	( $\chi^2 = 6.684$ , df=1, p=.010)
社会に問題	10188 (34.0)	127 (40.4)	53 (36.6)	10368 (34.0)	( $\chi^2 = 26.793$ , df=1, p=.000)
無回答	320 (1.1)	7 (2.2)	15 (10.3)	342 (1.1)	
合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
全体 本人に問題	39676 (64.4)	392 (50.8)	222 (55.5)	40290 (64.1)	( $\chi^2 = 53.540$ , df=1, p=.000)
家庭に問題	37648 (61.1)	413 (53.6)	207 (51.8)	38268 (60.9)	( $\chi^2 = 14.072$ , df=1, p=.000)
学校に問題	21965 (35.6)	331 (42.9)	123 (30.8)	22419 (35.7)	( $\chi^2 = 21.047$ , df=1, p=.000)
社会に問題	20344 (33.0)	283 (36.7)	133 (33.3)	20760 (33.1)	( $\chi^2 = 6.684$ , df=1, p=.010)
無回答	690 (1.1)	21 (2.7)	36 (9.0)	747 (1.2)	
合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	

(3) 「シンナー」吸引の繰り返しによる多発神経炎について

『シンナー遊び』を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなかったり、歩けなくなること（多発神経炎）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表16に示し

た。

「知っている」を選んだ生徒の割合は、男子では1996年調査<sup>10)</sup>、1998年調査<sup>13)</sup>、2000年調査<sup>20)</sup>では、経験者群の方が高かったが、今回は非経験者群の方が割合が高かった。女子では、1996年調査、2000年調査では、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者の割合が高く、1998年調査では、経験

表14 シンナー遊びによる急性中毒死を知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	19419 (61.5)	262 (58.2)	97 (38.2)	19778 (61.2)	
	知らない	12168 (38.5)	186 (41.3)	61 (24.0)	12415 (38.4)	
	無回答	11 (.0)	2 (.4)	96 (37.8)	109 (.3)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 1.673, df = 1, p = .196$ )						
女性	知っている	19767 (65.9)	211 (67.2)	62 (42.8)	20040 (65.8)	
	知らない	10216 (34.0)	99 (31.5)	42 (29.0)	10357 (34.0)	
	無回答	20 (.1)	4 (1.3)	41 (28.3)	65 (.2)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = .624, df = 1, p = .430$ )						
全体	知っている	39216 (63.6)	476 (61.7)	159 (39.8)	39851 (63.4)	
	知らない	22395 (36.3)	288 (37.4)	104 (26.0)	22787 (36.3)	
	無回答	31 (.1)	7 (.9)	137 (34.3)	175 (.3)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = .592, df = 1, p = .442$ )						

表15 「シンナー遊び」を繰り返すと歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	19302 (61.1)	267 (59.3)	102 (40.2)	19671 (60.9)	
	知らない	12281 (38.9)	180 (40.0)	56 (22.0)	12517 (38.7)	
	無回答	15 (.0)	3 (.7)	96 (37.8)	114 (.4)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = .355, df = 1, p = .551$ )						
女性	知っている	18674 (62.2)	210 (66.9)	61 (42.1)	18945 (62.2)	
	知らない	11314 (37.7)	101 (32.2)	44 (30.3)	11459 (37.6)	
	無回答	15 (.0)	3 (1.0)	40 (27.6)	58 (.2)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = .3.617, df = 1, p = .057$ )						
全体	知っている	38010 (61.7)	481 (62.4)	164 (41.0)	38655 (61.5)	
	知らない	23602 (38.3)	283 (36.7)	100 (25.0)	23985 (38.2)	
	無回答	30 (.0)	7 (.9)	136 (34.0)	173 (.3)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = .512, df = 1, p = .474$ )						

者群の方が高かったが、今回は経験者群の方でわずかに高かった。しかし、男女ともに統計学的有意差 ( $p < 0.05$ ) はなく、拮抗した結果と見るべきであろう。

ここでも、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

(4) 「シンナー」吸引の繰り返しによる有機溶剤精神病について

『シンナー遊び』を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり（幻聴）、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると

表16 「シンナー遊び」を繰り返すと多発神経炎になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	17776 (56.3)	242 (53.8)	137 (53.9)	18155 (56.2)	
	知らない	13654 (43.2)	200 (44.4)	99 (39.0)	13953 (43.2)	
	無回答	168 (.5)	8 (1.8)	18 (7.1)	194 (.6)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = .579, df = 1, p = .447$ )						
女性	知っている	18628 (62.1)	197 (62.7)	91 (62.8)	18916 (62.1)	
	知らない	11268 (37.6)	116 (36.9)	48 (33.1)	11432 (37.5)	
	無回答	107 (.4)	1 (.3)	6 (4.1)	114 (.4)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = .052, df = 1, p = .819$ )						
全体	知っている	36437 (59.1)	441 (57.2)	228 (57.0)	37106 (59.1)	
	知らない	24930 (40.4)	320 (41.5)	148 (37.0)	25398 (40.4)	
	無回答	275 (.4)	10 (1.3)	24 (6.0)	309 (.5)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = .633, df = 1, p = .426$ )						

表17 「シンナー遊び」を繰り返すと精神病状態になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	23839 (75.4)	308 (68.4)	174 (68.5)	24321 (75.3)	
	知らない	7560 (23.9)	136 (30.2)	63 (24.8)	7759 (24.0)	
	無回答	199 (.6)	6 (1.3)	17 (6.7)	222 (.7)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 10.259, df = 1, p = .001$ )						
女性	知っている	24101 (80.3)	244 (77.7)	104 (71.7)	24449 (80.3)	
	知らない	5759 (19.2)	66 (21.0)	34 (23.4)	5859 (19.2)	
	無回答	143 (.5)	4 (1.3)	7 (4.8)	154 (.5)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = .791, df = 1, p = .374$ )						
全体	知っている	47974 (77.8)	556 (72.1)	278 (69.5)	48808 (77.7)	
	知らない	13326 (21.6)	204 (26.5)	98 (24.5)	13628 (21.7)	
	無回答	342 (.6)	11 (1.4)	24 (6.0)	377 (.6)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 11.467, df = 1, p = .001$ )						

思い込んだり（妄想）する状態（精神病状態）になることがあるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表17に示した。

1996年調査<sup>10)</sup>では、男女ともに経験者群の方が「知っている」を選んだ者が多く、1998年調査<sup>13)</sup>ではその割合は非経験者群の方が多かったが、男子では有意差がなく、2000年調査<sup>20)</sup>では男子共に経験者群の方が割合が高いという結果であった。今回は、男女ともに「知っている」を選んだ者は非経験者群で多く、男子では有意差も認められた。しかし、女子では有意差は認められず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

#### (5) 「シンナー」吸引の繰り返しによる無動機症候群について

「『シンナー遊び』を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事についても長続きしなくなる（無動機症候群）を知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表18に示した。

男女共に、有意差こそ認められなかったが、「知っている」を選んだ者は経験者群の方で多かった。

この無動機症候群は有機溶剤乱用による害の中でも、特に重篤なものと考えられるが、これまでに述べた害の中でも、この無動機症候群について

の知識普及率が最も低く、ややもすれば身体への害知識の普及に傾きがちな薬物乱用防止教育の今後の最大の課題であろうと考えられる。

#### (6) 有機溶剤精神病後のフラッシュバックについて

「『シンナー遊び』の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再出現すること（フラッシュバック）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表19に示した。

これまでの3回の調査<sup>10)13)20)</sup>では、毎回、男女ともに経験者群の方が「知っている」と答えた者の割合が有意差を持って高かったが、今回は、「知っている」と答えた者の割合は、相変わらず経験者群の方で高いことはこれまでと同じであるが、初めて男子で有意差が認められなかった。このことは、前述の諸害に対する知識保有率と同様に、これまでよりは薬物乱用防止教育の成果が出てきている可能性を伺わせる。

しかし、今後、一層の薬物乱用防止教育の推進が必要なことに変わりはない。

表18 「シンナー遊び」を繰り返すと無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	14708 (46.5)	226 (50.2)	106 (41.7)	15040 (46.6)	
	知らない	16508 (52.2)	215 (47.8)	126 (49.6)	16849 (52.2)	
	無回答	382 (1.2)	9 (2.0)	22 (8.7)	413 (1.3)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 2.977, df = 1, p = .084$ )						
女性	知っている	15763 (52.5)	180 (57.3)	68 (46.9)	16011 (52.6)	
	知らない	13968 (46.6)	130 (41.4)	70 (48.3)	14168 (46.5)	
	無回答	272 (.9)	4 (1.3)	7 (4.8)	283 (.9)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = 3.136, df = 1, p = .077$ )						
全体	知っている	30499 (49.5)	409 (53.0)	174 (43.5)	31082 (49.5)	
	知らない	30489 (49.5)	348 (45.1)	197 (49.3)	31034 (49.4)	
	無回答	654 (1.1)	14 (1.8)	29 (7.3)	697 (1.1)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 4.835, df = 1, p = .028$ )						

#### 4. 有機溶剤乱用と日常生活の規則性について

##### (1)起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の分布を表20に示した。

男女ともに、非経験者群では80%台の者が一定しているを選んだのに対して、経験者群では、62～55%であった。男女共に、経験者群の起床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ( $p<0.01$ ) に乱れていた。

##### (2)就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の分布を表21に示した。

一定しているを選んだ者は、非経験者群では52～49%であったのに対して、経験者群では、約36～26%と低かった。

男女共に、経験者群の就床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ( $p<0.01$ ) に乱れていた。

##### (3)朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表22に示した。

非経験者群では男女ともに80%台の者が「ほとんど毎日(食べている)」を選んだのに対して、経験者群では、「ほとんど毎日(食べている)」を選んだ者は62～59%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意 ( $p<0.01$ ) に低いと解釈できる。

#### 5. 有機溶剤乱用と学校生活について

##### (1)学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれですか？」との問いに対する回答を表23に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ( $p<0.01$ ) が認められ、「全く楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では、4～3%であったが、経験者群では男子で16%、女子では22%であった。

経験者群で「楽しくない」傾向の者が有意に多いと解釈できる。

##### (2)クラブ活動について

「クラブ活動(部活)に参加していますか？」との問いに対する回答の分布を表24に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群との間には、

表19 「シンナー遊び」の結果、フラッシュバックが起こることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	知っている	16839	(53.3)	249	(55.3)	119	(46.9)	17207	(53.3)
	知らない	14501	(45.9)	193	(42.9)	116	(45.7)	14810	(45.8)
	無回答	258	(.8)	8	(1.8)	19	(7.5)	285	(.9)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 1.190, df = 1, p = .275$ )									
女性	知っている	17126	(57.1)	200	(63.7)	75	(51.7)	17401	(57.1)
	知らない	12703	(42.3)	110	(41.4)	63	(43.4)	12876	(42.3)
	無回答	174	(.6)	4	(1.3)	7	(4.8)	185	(.6)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 6.332, df = 1, p = .012$ )									
全体	知っている	33995	(55.1)	452	(58.6)	194	(48.5)	34641	(55.1)
	知らない	27215	(44.2)	306	(39.7)	180	(45.0)	27701	(44.1)
	無回答	432	(.7)	13	(1.7)	26	(6.5)	471	(.7)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 5.079, df = 1, p = .024$ )									

回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は、男女ともに18%であったのに対して、経験者群では、男子で31%、女子で38%の者が「参加していない」を選んだ。

経験者群の方で、クラブ活動(部活)に参加し

ていない者の割合が有意に高いと解釈できる。

## 6. 有機溶剤乱用と家庭生活について

### (1) 家族との夕食頻度

夕食には、「一家団らん」としての意味合いが

表20 あなたの起床時間はほぼ一定していますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	はい	25588	(81.0)	281	(62.4)	192	(75.6)	26061	(80.7)
	いいえ	5922	(18.7)	166	(36.9)	62	(24.4)	6150	(19.0)
	無回答	88	(.3)	3	(.7)	0	(.0)	91	(.3)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 96.157, df = 1, p = .000$ )									
女性	はい	24933	(83.1)	172	(54.8)	98	(67.6)	25203	(82.7)
	いいえ	5006	(16.7)	138	(43.9)	45	(31.0)	5189	(17.0)
	無回答	64	(.2)	4	(1.3)	2	(1.4)	70	(.2)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 167.956, df = 1, p = .000$ )									
全体	はい	50544	(82.0)	454	(58.9)	291	(72.8)	51289	(81.7)
	いいえ	10937	(17.7)	307	(39.8)	107	(26.8)	11351	(18.1)
	無回答	161	(.3)	10	(1.3)	2	(.5)	173	(.3)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 258.298, df = 1, p = .000$ )									

表21 あなたの就寝時間はほぼ一定していますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	はい	16315	(51.6)	162	(36.0)	136	(53.5)	16613	(51.4)
	いいえ	15140	(47.9)	282	(62.7)	115	(45.3)	15537	(48.1)
	無回答	143	(.5)	6	(1.3)	3	(1.2)	152	(.5)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 41.478, df = 1, p = .000$ )									
女性	はい	14659	(48.9)	80	(25.5)	56	(38.6)	14795	(48.6)
	いいえ	15231	(50.8)	231	(73.6)	86	(59.3)	15548	(51.0)
	無回答	113	(.4)	3	(1.0)	3	(2.1)	119	(.4)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 66.991, df = 1, p = .000$ )									
全体	はい	30983	(50.3)	243	(31.5)	193	(48.3)	31419	(50.0)
	いいえ	30396	(49.3)	516	(66.9)	201	(50.3)	31113	(49.5)
	無回答	263	(.4)	12	(1.6)	6	(1.5)	281	(.4)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 102.223, df = 1, p = .000$ )									

表22 毎朝、朝食を食べていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日食べている	26412	(83.6)	280	(62.2)	192	(75.6)	26884	(83.2)
	時々食べる	3283	(10.4)	84	(18.7)	41	(16.1)	3408	(10.6)
	ほとんど食べない	1845	(5.8)	81	(18.0)	18	(7.1)	1944	(6.0)
	無回答	58	(.2)	5	(1.1)	3	(1.2)	66	(.2)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 163.873$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日食べている	25228	(84.1)	184	(58.6)	107	(73.8)	25519	(83.8)
	時々食べる	3122	(10.4)	55	(17.5)	23	(15.9)	3200	(10.5)
	ほとんど食べない	1590	(5.3)	74	(23.6)	15	(10.3)	1679	(5.5)
	無回答	63	(.2)	1	(.3)	0	(.0)	64	(.2)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 228.242$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日食べている	51662	(83.8)	467	(60.6)	300	(75.0)	52429	(83.5)
	時々食べる	6407	(10.4)	139	(18.0)	64	(16.0)	6610	(10.5)
	ほとんど食べない	3444	(5.6)	158	(20.5)	33	(8.3)	3635	(5.8)
	無回答	129	(.2)	7	(.9)	3	(.8)	139	(.2)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 387.317$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									

表23 あなたにとって、学校生活は次のどれですか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	とても楽しい	10515	(33.3)	112	(24.9)	95	(37.4)	10722	(33.2)
	どちらかといえば楽しい	15616	(49.4)	188	(41.8)	104	(40.9)	15908	(49.2)
	あまり楽しくない	4096	(13.0)	74	(16.4)	40	(15.7)	4210	(13.0)
	まったく楽しくない	1301	(4.1)	74	(16.4)	14	(5.5)	1389	(4.3)
	無回答	70	(.2)	2	(.4)	1	(.4)	73	(.2)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 176.327$ , $df = 3$ , $p = .000$ )									
女性	とても楽しい	11172	(37.2)	85	(27.1)	56	(38.6)	11313	(37.1)
	どちらかといえば楽しい	13873	(46.2)	104	(33.1)	60	(41.4)	14037	(46.1)
	あまり楽しくない	3978	(13.3)	55	(17.5)	25	(17.2)	4058	(13.3)
	まったく楽しくない	918	(3.1)	68	(21.7)	3	(2.1)	989	(3.2)
	無回答	62	(.2)	2	(.6)	1	(.7)	65	(.2)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 356.406$ , $df = 3$ , $p = .000$ )									
全体	とても楽しい	21698	(35.2)	198	(25.7)	151	(37.8)	22047	(35.1)
	どちらかといえば楽しい	29501	(47.9)	292	(37.9)	164	(41.0)	29957	(47.7)
	あまり楽しくない	8078	(13.1)	131	(17.0)	65	(16.3)	8274	(13.2)
	まったく楽しくない	2227	(3.6)	144	(18.7)	18	(4.5)	2389	(3.8)
	無回答	138	(.2)	6	(.8)	2	(.5)	146	(.2)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 501.892$ , $df = 3$ , $p = .000$ )									

強いと考え、一週間における家族での夕食頻度を調査した。

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？」との問いに対する回答の分布を表25に、また「母親と週何回くらい夕食を食べますか？」「父親と週何回くらい夕食を食べますか？」の問いに対する回答の分布を、それぞれ表26、表27に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、かつ、親との夕食頻度は常に「シンナー遊び」経験者群で低い傾向が示唆された。

同時に、両群間では、「ほとんど食べる」を選んだ者の割合の差よりは、むしろ「ほとんど食べない」、ないしは「母親・父親がいない(死別、離婚、別居、単身赴任など)」を選んだ者の割合の差が大きいことが目立った。

すなわち、「家族全員での夕食頻度」では「ほとんど食べない」を選んだ者は、非経験者群では男女共に約19%であったのに対して、経験者群では、男子で31%、女子で37%であった。

「母親との夕食頻度」では、「ほとんど食べない」ないしは「母親がいない」を選んだ者は、非

経験者群では8~7%であったのに対して、経験者群では、男子で19%、女子で21%であった。

また、「父親との夕食頻度」では、「ほとんど食べない」ないしは「父親がいない」と答えた者は、非経験者群では男子で22%、女子で24%であったのに対して、経験者群では、男子で37%、女子で40%であった。

また、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、これは論理の矛盾であるが、この矛盾は、この種の調査で毎回認められていることである<sup>5)10)13)14)20)</sup>。我が国の社会環境の中で、父親が夕食時に帰宅できない事情がかなり定着しており、家族全員での夕食と言ったときには、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に少ないと解釈できる。

## (2) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人

表24 クラブ活動(部活)には参加していますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	積極的に参加している	21820	(69.1)	232	(51.6)	174	(68.5)	22226	(68.8)
	消極的に参加している	3864	(12.2)	75	(16.7)	36	(14.2)	3975	(12.3)
	参加していない	5576	(17.6)	138	(30.7)	40	(15.7)	5754	(17.8)
	無回答	338	(1.1)	5	(1.1)	4	(1.6)	347	(1.1)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 69.068, df = 2, p = .000$ )									
女性	積極的に参加している	20075	(66.9)	131	(41.7)	90	(62.1)	20296	(66.6)
	消極的に参加している	4016	(13.4)	60	(19.1)	17	(11.7)	4093	(13.4)
	参加していない	5524	(18.4)	120	(38.2)	34	(23.4)	5678	(18.6)
	無回答	388	(1.3)	3	(1.0)	4	(2.8)	395	(1.3)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 102.282, df = 2, p = .000$ )									
全体	積極的に参加している	41910	(68.0)	366	(47.5)	265	(66.3)	42541	(67.7)
	消極的に参加している	7888	(12.8)	135	(17.5)	53	(13.3)	8076	(12.9)
	参加していない	11109	(18.0)	260	(33.7)	74	(18.5)	11443	(18.2)
	無回答	735	(1.2)	10	(1.3)	8	(2.0)	753	(1.2)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 163.706, df = 2, p = .000$ )									

が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？」との問いに対する回答の分布を表28に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、男女ともに27~28%であったのに対して、経験者群では男女ともに約15%であった。

経験者群で、大人不在で過ごす時間が有意に長い傾向があることが示唆された。

### (3) 親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思

いますか？」との問いに対する回答の分布を表29に示した。

男女ともに、回答の分布には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で43%、女子で34%であったのに対して、経験者群では男女共に46~42%であった。

経験者群の方で、親との相談が少ない傾向にあることが示唆された。

しかし、それ以前に、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、男女ともに、そもそも、「よく相談する方である」を選んだ者の少なさが目立っていた。

表25 夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	ほとんど毎日	9857 (31.2)	116 (25.8)	88 (34.6)	10061 (31.1)	
	5 - 6回	3594 (11.4)	56 (12.4)	26 (10.2)	3676 (11.4)	
	4回前後	3355 (10.6)	38 (8.4)	32 (12.6)	3425 (10.6)	
	3回前後	2923 (9.3)	35 (7.8)	20 (7.9)	2978 (9.2)	
	2回前後	5746 (18.2)	63 (14.0)	37 (14.6)	5846 (18.1)	
	ほとんど食べない	5916 (18.7)	138 (30.7)	49 (19.3)	6103 (18.9)	
	無回答	207 (.7)	4 (.9)	2 (.8)	213 (.7)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 45.547, df = 5, p = .000$ )						
女性	ほとんど毎日	9697 (32.3)	65 (20.7)	58 (40.0)	9820 (32.2)	
	5 - 6回	3361 (11.2)	30 (9.6)	13 (9.0)	3404 (11.2)	
	4回前後	2961 (9.9)	35 (11.1)	11 (7.6)	3007 (9.9)	
	3回前後	2681 (8.9)	24 (7.6)	12 (8.3)	2717 (8.9)	
	2回前後	5545 (18.5)	41 (13.1)	22 (15.2)	5608 (18.4)	
	ほとんど食べない	5568 (18.6)	117 (37.3)	28 (19.3)	5713 (18.8)	
	無回答	190 (.6)	2 (.6)	1 (.7)	193 (.6)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = 77.812, df = 5, p = .000$ )						
全体	ほとんど毎日	19567 (31.7)	183 (23.7)	146 (36.5)	19896 (31.7)	
	5 - 6回	6957 (11.3)	87 (11.3)	39 (9.8)	7083 (11.3)	
	4回前後	6318 (10.2)	73 (9.5)	43 (10.8)	6434 (10.2)	
	3回前後	5607 (9.1)	59 (7.7)	32 (8.0)	5698 (9.1)	
	2回前後	11300 (18.3)	105 (13.6)	59 (14.8)	11464 (18.3)	
	ほとんど食べない	11494 (18.6)	257 (33.3)	78 (19.5)	11829 (18.8)	
	無回答	399 (.6)	7 (.9)	3 (.8)	409 (.7)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 114.417, df = 5, p = .000$ )						

7. 有機溶剤乱用と友人関係について

果<sup>5)10)13)14)20)</sup>と同じであった。

(1)遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表30に示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。男女ともに、経験者群の方で、「親しく遊べる友人がいない」を選んだ生徒が多いのは、これまでの同種の調査結

(2)相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表31に示した。

男女ともに、経験者群・非経験者群間で有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「(相談できる友人は)いない」を選んだ者は、非経験者群の男子で19%、女子で10%であったのに対して、経験者群では男

表26 母親と週何回くらい夕食を食べますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	19375	(61.3)	218	(48.4)	143	(56.3)	19736	(61.1)
	5 - 6回	3737	(11.8)	51	(11.3)	33	(13.0)	3821	(11.8)
	4回前後	2579	(8.2)	41	(9.1)	23	(9.1)	2643	(8.2)
	3回前後	1436	(4.5)	20	(4.4)	12	(4.7)	1468	(4.5)
	2回前後	1461	(4.6)	25	(5.6)	14	(5.5)	1500	(4.6)
	ほとんど食べない	1889	(6.0)	51	(11.3)	17	(6.7)	1957	(6.1)
	母親がいない	667	(2.1)	36	(8.0)	7	(2.8)	710	(2.2)
	無回答	454	(1.4)	8	(1.8)	5	(2.0)	467	(1.4)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 104.961$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日	20141	(67.1)	136	(43.3)	84	(57.9)	20361	(66.8)
	5 - 6回	2963	(9.9)	33	(10.5)	14	(9.7)	3010	(9.9)
	4回前後	2021	(6.7)	39	(12.4)	13	(9.0)	2073	(6.8)
	3回前後	1149	(3.8)	15	(4.8)	5	(3.4)	1169	(3.8)
	2回前後	1208	(4.0)	20	(6.4)	8	(5.5)	1236	(4.1)
	ほとんど食べない	1460	(4.9)	30	(9.6)	8	(5.5)	1498	(4.9)
	母親がいない	656	(2.2)	37	(11.8)	10	(6.9)	703	(2.3)
	無回答	405	(1.3)	4	(1.3)	3	(2.1)	412	(1.4)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 185.163$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日	39540	(64.1)	358	(46.4)	227	(56.8)	40125	(63.9)
	5 - 6回	6702	(10.9)	84	(10.9)	47	(11.8)	6833	(10.9)
	4回前後	4601	(7.5)	80	(10.4)	36	(9.0)	4717	(7.5)
	3回前後	2587	(4.2)	35	(4.5)	17	(4.3)	2639	(4.2)
	2回前後	2672	(4.3)	46	(6.0)	23	(5.8)	2741	(4.4)
	ほとんど食べない	3352	(5.4)	81	(10.5)	25	(6.3)	3458	(5.5)
	母親がいない	1326	(2.2)	74	(9.6)	17	(4.3)	1417	(2.3)
	無回答	862	(1.4)	13	(1.7)	8	(2.0)	883	(1.4)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 275.432$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									

子で26%、女子で22%と、違いが認められた。  
 経験者群の方で、相談事のできる友人が「いない」傾向がより強いことが示唆された。

2. 喫煙について

1. 喫煙の広がりについて

(1) 喫煙の生涯経験率について

喫煙の生涯経験率（これまでに1回でも喫煙したことのある者の率）についての回答を表32に示した。

生涯経験率と学年の間には、男女ともに有意差が認められ（ $P < 0.01$ ）学年が進むにしたがって、生涯経験率が増加する傾向が認められた。

男子では20.0%（1年生14.5%、2年生19.2%、3年生26.0%）であり、女子では13.6%（1年生10.2%、2年生13.8%、3年生16.6%）であった。全体では16.9%（1年生で12.4%、2年生で16.6%、3年生で21.4%）

表27 父親と週何回くらい夕食を食べますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	8978	(28.4)	109	(24.2)	74	(29.1)	9161	(28.4)
	5 - 6回	3879	(12.3)	51	(11.3)	25	(9.8)	3955	(12.2)
	4回前後	3564	(11.3)	36	(8.0)	36	(14.2)	3636	(11.3)
	3回前後	2819	(8.9)	30	(6.7)	15	(5.9)	2864	(8.9)
	2回前後	4821	(15.3)	50	(11.1)	35	(13.8)	4906	(15.2)
	ほとんど食べない	3775	(11.9)	91	(20.2)	32	(12.6)	3898	(12.1)
	父親がいない	3269	(10.3)	74	(16.4)	33	(13.0)	3376	(10.5)
	無回答	493	(1.6)	9	(2.0)	4	(1.6)	506	(1.6)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 56.116, df = 6, p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日	8333	(27.8)	67	(21.3)	51	(35.2)	8451	(27.7)
	5 - 6回	3528	(11.8)	21	(6.7)	8	(5.5)	3557	(11.7)
	4回前後	3141	(10.5)	29	(9.2)	17	(11.7)	3187	(10.5)
	3回前後	2663	(8.9)	20	(6.4)	14	(9.7)	2697	(8.9)
	2回前後	4590	(15.3)	43	(13.7)	16	(11.0)	4649	(15.3)
	ほとんど食べない	3646	(12.2)	56	(17.8)	17	(11.7)	3719	(12.2)
	父親がいない	3654	(12.2)	71	(22.6)	14	(9.7)	3739	(12.3)
	無回答	448	(1.5)	7	(2.2)	8	(5.5)	463	(1.5)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 50.751, df = 6, p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日	17319	(28.1)	179	(23.2)	125	(31.3)	17623	(28.1)
	5 - 6回	7411	(12.0)	73	(9.5)	33	(8.3)	7517	(12.0)
	4回前後	6705	(10.9)	65	(8.4)	53	(13.3)	6823	(10.9)
	3回前後	5487	(8.9)	50	(6.5)	30	(7.5)	5567	(8.9)
	2回前後	9421	(15.3)	94	(12.2)	51	(12.8)	9566	(15.2)
	ほとんど食べない	7427	(12.0)	147	(19.1)	49	(12.3)	7623	(12.1)
	父親がいない	6928	(11.2)	146	(18.9)	47	(11.8)	7121	(11.3)
	無回答	944	(1.5)	17	(2.2)	12	(3.0)	973	(1.5)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 95.910, df = 6, p = .000$ )									

であった。

## 2. 喫煙に対する捉え方

### (2) 喫煙の1年経験率について

1年喫煙率（この1年間に1回でも喫煙したことのある者の率）についての回答を表33に示した。

生涯経験率と同様に、1年経験率（1年喫煙率）と学年との間には、男女ともに有意差が認められ（ $P < 0.01$ ）学年が進むにしたがって、経験率が増加する傾向が認められた。

男子では8.9%（1年生5.3%、2年生8.5%、3年生12.7%）であり、女子では5.5%（1年生3.1%、2年生5.7%、3年生7.7%）であった。全体では7.3%（1年生4.3%、2年生7.1%、3年生10.3%）であった。

### (1) 喫煙と法の遵守について

「未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表34に示した。

回答の分布には、男女共に有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、未経験者群では、男女共に87～86%の者が「法律で禁じられているから、吸うべきでない」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は男女共に53～48%しかおらず、逆に「法律で禁じられてはいるが、全然かまわない」を選んだ者が男子で14%、女子で13%いた（未経験者群では、それぞれ4%、3%）。

表28 大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	なし、あるいはほとんどなし	10353	(32.8)	131	(29.1)	105	(41.3)	10589	(32.8)
	1時間未満	6221	(19.7)	73	(16.2)	37	(14.6)	6331	(19.6)
	1時間以上2時間未満	6156	(19.5)	66	(14.7)	34	(13.4)	6256	(19.4)
	2時間以上3時間未満	4010	(12.7)	54	(12.0)	29	(11.4)	4093	(12.7)
	3時間以上	4661	(14.8)	122	(27.1)	40	(15.7)	4823	(14.9)
	無回答	197	(.6)	4	(.9)	9	(3.5)	210	(.7)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 55.549, df = 4, p = .000$ )									
女性	なし、あるいはほとんどなし	11693	(39.0)	92	(29.3)	46	(31.7)	11831	(38.8)
	1時間未満	4983	(16.6)	47	(15.0)	26	(17.9)	5056	(16.6)
	1時間以上2時間未満	5215	(17.4)	35	(11.1)	24	(16.6)	5274	(17.3)
	2時間以上3時間未満	3652	(12.2)	41	(13.1)	19	(13.1)	3712	(12.2)
	3時間以上	4252	(14.2)	94	(29.9)	20	(13.8)	4366	(14.3)
	無回答	208	(.7)	5	(1.6)	10	(6.9)	223	(.7)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 69.624, df = 4, p = .000$ )									
全体	なし、あるいはほとんどなし	22056	(35.8)	223	(28.9)	152	(38.0)	22431	(35.7)
	1時間未満	11210	(18.2)	120	(15.6)	63	(15.8)	11393	(18.1)
	1時間以上2時間未満	11376	(18.5)	104	(13.5)	58	(14.5)	11538	(18.4)
	2時間以上3時間未満	7665	(12.4)	95	(12.3)	48	(12.0)	7808	(12.4)
	3時間以上	8927	(14.5)	218	(28.3)	60	(15.0)	9205	(14.7)
	無回答	408	(.7)	11	(1.4)	19	(4.8)	438	(.7)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 122.878, df = 4, p = .000$ )									

表29 悩み事があるとき、親と相談する方だと思いますか？

		生涯シナナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	よく相談する	2790	(8.8)	39	(8.7)	10	(3.9)	2839	(8.8)
	どちらかといえば相談する	6408	(20.3)	44	(9.8)	30	(11.8)	6482	(20.1)
	どちらかといえば相談しない	8546	(27.0)	126	(28.0)	46	(18.1)	8718	(27.0)
	ほとんど相談しない	13647	(43.2)	207	(46.0)	96	(37.8)	13950	(43.2)
	親がいない	115	(.4)	26	(5.8)	2	(.8)	143	(.4)
	無回答	92	(.3)	8	(1.8)	70	(27.6)	170	(.5)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 325.471, df = 4, p = .000$ )									
女性	よく相談する	4594	(15.3)	33	(10.5)	13	(9.0)	4640	(15.2)
	どちらかといえば相談する	7953	(26.5)	59	(18.8)	27	(18.6)	8039	(26.4)
	どちらかといえば相談しない	7087	(23.6)	65	(20.7)	28	(19.3)	7180	(23.6)
	ほとんど相談しない	10224	(34.1)	131	(41.7)	47	(32.4)	10402	(34.1)
	親がいない	94	(.3)	25	(8.0)	0	(.0)	119	(.4)
	無回答	51	(.2)	1	(.3)	30	(20.7)	82	(.3)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 481.963, df = 4, p = .000$ )									
全体	よく相談する	7386	(12.0)	73	(9.5)	23	(5.8)	7482	(11.9)
	どちらかといえば相談する	14369	(23.3)	103	(13.4)	57	(14.3)	14529	(23.1)
	どちらかといえば相談しない	15646	(25.4)	194	(25.2)	75	(18.8)	15915	(25.3)
	ほとんど相談しない	23889	(38.8)	340	(44.1)	143	(35.8)	24372	(38.8)
	親がいない	209	(.3)	52	(6.7)	2	(.5)	263	(.4)
	無回答	143	(.2)	9	(1.2)	100	(25.0)	252	(.4)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 796.496, df = 4, p = .000$ )									

表30 親しく遊べる友人がいますか？

		生涯シナナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	いる	30319	(96.0)	389	(86.4)	240	(94.5)	30948	(95.8)
	いない	1221	(3.9)	58	(12.9)	12	(4.7)	1291	(4.0)
	無回答	58	(.2)	3	(.7)	2	(.8)	63	(.2)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 95.169, df = 1, p = .000$ )									
女性	いる	28913	(96.4)	256	(81.5)	136	(93.8)	29305	(96.2)
	いない	1024	(3.4)	54	(17.2)	8	(5.5)	1086	(3.6)
	無回答	66	(.2)	4	(1.3)	1	(.7)	71	(.2)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 174.943, df = 1, p = .000$ )									
全体	いる	59269	(96.2)	650	(84.3)	376	(94.0)	60295	(96.0)
	いない	2247	(3.6)	114	(14.8)	20	(5.0)	2381	(3.8)
	無回答	126	(.2)	7	(.9)	4	(1.0)	137	(.2)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 262.737, df = 1, p = .000$ )									

(2)喫煙と法規制の必要性について

「未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？」に対する回答の分布を表35に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ( $p < 0.01$ )、未経験者群では男女共に69~67%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は、男子で35%、女子で30%であり、18~22%の者が「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」

を選んでいた。

これを「シンナー遊び」に関する法規制の必要性(表10)と比べた場合、「当然だと思う」を選んだ者は、「シンナー遊び」非経験者群では、男女共に約90%であったわけで、喫煙に関しては約20%強の低下と言うことになる。

3. 喫煙による医学的害について

「健康面から、喫煙をどう思いますか？」との

表31 相談事のできる友人がいますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	いる	25423	(80.5)	333	(74.0)	189	(74.4)	25945	(80.3)
	いない	6017	(19.0)	115	(25.6)	58	(22.8)	6190	(19.2)
	無回答	158	(.5)	2	(.4)	7	(2.8)	167	(.5)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 12.132, df = 1, p = .000$ )									
女性	いる	26752	(89.2)	241	(76.8)	128	(88.3)	27121	(89.0)
	いない	3123	(10.4)	69	(22.0)	15	(10.3)	3207	(10.5)
	無回答	128	(.4)	4	(1.3)	2	(1.4)	134	(.4)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 45.211, df = 1, p = .000$ )									
全体	いる	52204	(84.7)	579	(75.1)	317	(79.3)	53100	(84.5)
	いない	9150	(14.8)	185	(24.0)	73	(18.3)	9408	(15.0)
	無回答	288	(.5)	7	(.9)	10	(2.5)	305	(.5)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 51.124, df = 1, p = .000$ )									

表32 喫煙の生涯経験率

		1年	2年	3年	全体				
男性	喫煙経験なし	9039	(84.4)	8354	(79.6)	8131	(73.2)	25524	(79.0)
	喫煙経験あり	1548	(14.5)	2019	(19.2)	2883	(26.0)	6450	(20.0)
	無回答	120	(1.1)	119	(1.1)	89	(.8)	328	(1.0)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 452.295, df = 2, p = .000$ )									
女性	喫煙経験なし	8831	(89.1)	8574	(85.4)	8706	(82.8)	26111	(85.7)
	喫煙経験あり	1010	(10.2)	1383	(13.8)	1743	(16.6)	4136	(13.6)
	無回答	69	(.7)	82	(.8)	64	(.6)	215	(.7)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 177.420, df = 2, p = .000$ )									
全体	喫煙経験なし	17877	(86.7)	16935	(82.4)	16851	(77.9)	51663	(82.2)
	喫煙経験あり	2564	(12.4)	3408	(16.6)	4635	(21.4)	10607	(16.9)
	無回答	189	(.9)	201	(1.0)	153	(.7)	543	(.9)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 605.926, df = 2, p = .000$ )									

問いに対する回答の分布を表36に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、未経験者群では男性の81%、女性の84%が「害ばかりで良い面はない」を選んだのに対し

て、経験者群では、それを選んだ者は、男女共に63~62%であり、「害もあるが良い面もある」を選んだ者が29~32%いた。

しかし、「害よりも良い面の方が多い」を選択

表33 喫煙の1年経験率

		1年		2年		3年		全体	
男性	経験なし	10001	(93.4)	9479	(90.3)	9575	(86.2)	29055	(89.9)
	経験あり	568	(5.3)	889	(8.5)	1415	(12.7)	2872	(8.9)
	無回答	138	(1.3)	124	(1.2)	113	(1.0)	375	(1.2)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 373.637, df = 2, p = .000$ )									
女性	経験なし	9504	(95.9)	9387	(93.5)	9627	(91.6)	28518	(93.6)
	経験あり	309	(3.1)	568	(5.7)	806	(7.7)	1683	(5.5)
	無回答	97	(1.0)	84	(.8)	80	(.8)	261	(.9)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 201.778, df = 2, p = .000$ )									
全体	経験なし	19513	(94.6)	18876	(91.9)	19217	(88.8)	57606	(91.7)
	経験あり	881	(4.3)	1459	(7.1)	2229	(10.3)	4569	(7.3)
	無回答	236	(1.1)	209	(1.0)	193	(.9)	638	(1.0)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 567.709, df = 2, p = .000$ )									

表34 未成年の喫煙をどう思いますか？（法の遵守）

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	法律で禁じられているから吸うべきではない	22176	(86.9)	3407	(52.8)	208	(63.4)	25791	(79.8)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	2339	(9.2)	2146	(33.3)	34	(10.4)	4519	(14.0)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	915	(3.6)	872	(13.5)	15	(4.6)	1802	(5.6)
	無回答	94	(.4)	25	(.4)	71	(21.6)	190	(.6)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 3789.532, df = 2, p = .000$ )									
女性	法律で禁じられているから吸うべきではない	22463	(86.0)	1983	(47.9)	127	(59.1)	24573	(80.7)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	2931	(11.2)	1577	(38.1)	43	(20.0)	4551	(14.9)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	650	(2.5)	552	(13.3)	10	(4.7)	1212	(4.0)
	無回答	67	(.3)	24	(.6)	35	(16.3)	126	(.4)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 3441.804, df = 2, p = .000$ )									
全体	法律で禁じられているから吸うべきではない	44661	(86.4)	5394	(50.9)	335	(61.7)	50390	(80.2)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	5274	(10.2)	3731	(35.2)	77	(14.2)	9082	(14.5)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	1567	(3.0)	1433	(13.5)	25	(4.6)	3025	(4.8)
	無回答	161	(.3)	49	(.5)	106	(19.5)	316	(.5)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 7192.248, df = 2, p = .000$ )									

表35 未成年の喫煙禁止をどう思いますか？（法規制の必要性）

	生涯喫煙経験						全体	
	喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	当然だと思う	17653 (69.2)	2228 (34.5)	151 (46.0)	20032 (62.0)			
	仕方がないことだと思う	5598 (21.9)	2442 (37.9)	74 (22.6)	8114 (25.1)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	448 (1.8)	572 (8.9)	8 (2.4)	1028 (3.2)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1720 (6.7)	1186 (18.4)	23 (7.0)	2929 (9.1)			
	無回答	105 (.4)	22 (.3)	72 (22.0)	199 (.6)			
	合計	25524 (100.0)	6450 (100.0)	328 (100.0)	32302 (100.0)			
						$\chi^2 = 3096.010, df = 3, p = .000$		
女性	当然だと思う	17490 (67.0)	1229 (29.7)	105 (48.8)	18824 (61.8)			
	仕方がないことだと思う	6321 (24.2)	1596 (38.6)	51 (23.7)	7968 (26.2)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	601 (2.3)	393 (9.5)	9 (4.2)	1003 (3.3)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1621 (6.2)	906 (21.9)	14 (6.5)	2541 (8.3)			
	無回答	78 (.3)	12 (.3)	36 (16.7)	126 (.4)			
	合計	26111 (100.0)	4136 (100.0)	215 (100.0)	30462 (100.0)			
						$\chi^2 = 2699.503, df = 3, p = .000$		
全体	当然だと思う	35162 (68.1)	3459 (32.6)	256 (47.1)	38877 (61.9)			
	仕方がないことだと思う	11926 (23.1)	4044 (38.1)	125 (23.0)	16095 (25.6)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	1049 (2.0)	968 (9.1)	17 (3.1)	2034 (3.2)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	3343 (6.5)	2100 (19.8)	37 (6.8)	5480 (8.7)			
	無回答	183 (.4)	36 (.3)	108 (19.9)	327 (.5)			
	合計	51663 (100.0)	10607 (100.0)	543 (100.0)	62813 (100.0)			
						$\chi^2 = 5714.995, df = 3, p = .000$		

表36 健康面から喫煙をどう思いますか？

	生涯喫煙経験						全体	
	喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	害ばかりで良い面はない	20618 (80.8)	4042 (62.7)	192 (58.5)	24852 (76.9)			
	害もあるが良い面もある	3673 (14.4)	1874 (29.1)	48 (14.6)	5595 (17.3)			
	害よりも良い面の方が多い	313 (1.2)	221 (3.4)	4 (1.2)	538 (1.7)			
	無回答	920 (3.6)	313 (4.9)	84 (25.6)	1317 (4.1)			
	合計	25524 (100.0)	6450 (100.0)	328 (100.0)	32302 (100.0)			
						$\chi^2 = 1013.460, df = 2, p = .000$		
女性	害ばかりで良い面はない	22034 (84.4)	2572 (62.2)	129 (60.0)	24735 (81.2)			
	害もあるが良い面もある	3410 (13.1)	1328 (32.1)	38 (17.7)	4776 (15.7)			
	害よりも良い面の方が多い	185 (0.7)	115 (2.8)	4 (1.9)	304 (1.0)			
	無回答	482 (1.8)	121 (2.9)	44 (20.5)	647 (2.1)			
	合計	26111 (100.0)	4136 (100.0)	215 (100.0)	30462 (100.0)			
						$\chi^2 = 1207.168, df = 2, p = .000$		
全体	害ばかりで良い面はない	42670 (82.6)	6622 (62.4)	321 (59.1)	49613 (79.0)			
	害もあるが良い面もある	7091 (13.7)	3209 (30.3)	86 (15.8)	10386 (16.5)			
	害よりも良い面の方が多い	499 (1.0)	339 (3.2)	8 (1.5)	846 (1.3)			
	無回答	1403 (2.7)	437 (4.1)	128 (23.6)	1968 (3.1)			
	合計	51663 (100.0)	10607 (100.0)	543 (100.0)	62813 (100.0)			
						$\chi^2 = 2250.307, df = 2, p = .000$		

した者は、生涯喫煙経験に関わらず、極めて少数であり、喫煙の健康に及ぼす害についての知識は浸透していると推定される結果であった。

2. 生涯喫煙経験と日常生活の規則性について

1) 起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表37に示した。

非経験者群では83~85%の者が「一定している」を選んだのに対して、経験者群では、それを選ん

表37 起床時間は一定していますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	はい	21240	(83.2)	4563	(70.7)	258	(78.7)	26061	(80.7)
	いいえ	4220	(16.5)	1862	(28.9)	68	(20.7)	6150	(19.0)
	無回答	64	(.3)	25	(.4)	2	(.6)	91	(.3)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 511.484, df = 1, p = .000$ )									
女性	はい	22126	(84.7)	2921	(70.6)	156	(72.6)	25203	(82.7)
	いいえ	3926	(15.0)	1204	(29.1)	59	(27.4)	5189	(17.0)
	無回答	59	(.2)	11	(.3)	0	(.0)	70	(.2)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 503.055, df = 1, p = .000$ )									
全体	はい	43383	(84.0)	7492	(70.6)	414	(76.2)	51289	(81.7)
	いいえ	8153	(15.8)	3071	(29.0)	127	(23.4)	11351	(18.1)
	無回答	127	(.2)	44	(.4)	2	(.4)	173	(.3)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1039.849, df = 1, p = .000$ )									

表38 就寝時間は一定していますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	はい	13878	(54.4)	2560	(39.7)	175	(53.4)	16613	(51.4)
	いいえ	11526	(45.2)	3859	(59.8)	152	(46.3)	15537	(48.1)
	無回答	120	(.5)	31	(.5)	1	(.3)	152	(.5)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 446.279, df = 1, p = .000$ )									
女性	はい	13364	(51.2)	1347	(32.6)	84	(39.1)	14795	(48.6)
	いいえ	12653	(48.5)	2767	(66.9)	128	(59.5)	15548	(51.0)
	無回答	94	(.4)	22	(.5)	3	(1.4)	119	(.4)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 493.152, df = 1, p = .000$ )									
全体	はい	27249	(52.7)	3911	(36.9)	259	(47.7)	31419	(50.0)
	いいえ	24196	(46.8)	6637	(62.6)	280	(51.6)	31113	(49.5)
	無回答	218	(.4)	59	(.6)	4	(.7)	281	(.4)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 883.981, df = 1, p = .000$ )									

だ者は71%であった。男女共に、経験者群の起床時間は非経験者群のそれに比べて、有意( $p<0.01$ )に乱れていた。

「シンナー遊び」経験者群では、40%前後の者が「一定していない」を選んでいった(表20)が、生涯喫煙者群では29%であり、生涯喫煙者群は「シンナー遊び」経験者群ほどは乱れていないと解釈できる。

## (2)就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表38に示した。

男女ともに、非経験者群では54~51%の者が「一定している」と答えたのに対して、経験者群では、約60~67%の者が一定していないと答えた。

男女共に、経験者群の就床時間は非経験者群のそれに比べて、有意( $p<0.01$ )に乱れていた。

「シンナー遊び」経験者群では、63~73%(表21)の者が「一定していない」を選んでいったが、生涯喫煙者群では60~67%であり、「シンナー遊び」経験者群とさほど差がなかった。

## (3)朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表39に示した。

非経験者群では男女ともに約87%の者が「ほとんど毎日食べている」を選んだのに対して、経験者群では、「ほとんど毎日食べている」を選んだ者は70~67%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意( $p<0.01$ )に低かった。

しかし、「シンナー遊び」経験者群では、「ほとんど毎日食べている」を選んだ者は62~59%(表22)であり、生涯喫煙者群での朝食頻度は、「シンナー遊び」経験者群よりはまだ高いと言える。

## 2. 喫煙経験と学校生活について

### (1)学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれですか？」との問いに関する関係を表40に示した。

表39 毎朝、朝食を食べますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日食べている	22097	(86.6)	4536	(70.3)	251	(76.5)	26884	(83.2)
	時々食べる	2240	(8.8)	1122	(17.4)	46	(14.0)	3408	(10.6)
	ほとんど食べない	1142	(4.5)	774	(12.0)	28	(8.5)	1944	(6.0)
	無回答	45	(.2)	18	(.3)	3	(.9)	66	(.2)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 1014.245, df = 2, p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日食べている	22610	(86.6)	2749	(66.5)	160	(74.4)	25519	(83.8)
	時々食べる	2336	(8.9)	823	(19.9)	41	(19.1)	3200	(10.5)
	ほとんど食べない	1118	(4.3)	547	(13.2)	14	(6.5)	1679	(5.5)
	無回答	47	(.2)	17	(.4)	0	(.0)	64	(.2)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 1103.224, df = 2, p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日食べている	44724	(86.6)	7294	(68.8)	411	(75.7)	52429	(83.5)
	時々食べる	4577	(8.9)	1946	(18.3)	87	(16.0)	6610	(10.5)
	ほとんど食べない	2266	(4.4)	1327	(12.5)	42	(7.7)	3635	(5.8)
	無回答	96	(.2)	40	(.4)	3	(.6)	139	(.2)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 2099.334, df = 2, p = .000$ )									

表40 あなたにとって学校生活は？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	とても楽しい	8850	(34.7)	1766	(27.4)	106	(32.3)	10722	(33.2)
	どちらかといえば楽しい	12758	(50.0)	2992	(46.4)	158	(48.2)	15908	(49.2)
	あまり楽しくない	3035	(11.9)	1122	(17.4)	53	(16.2)	4210	(13.0)
	まったく楽しくない	828	(3.2)	552	(8.6)	9	(2.7)	1389	(4.3)
	無回答	53	(.2)	18	(.3)	2	(.6)	73	(.2)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 553.141, df = 3, p = .000$ )									
女性	とても楽しい	10055	(38.5)	1190	(28.8)	68	(31.6)	11313	(37.1)
	どちらかといえば楽しい	12125	(46.4)	1811	(43.8)	101	(47.0)	14037	(46.1)
	あまり楽しくない	3245	(12.4)	774	(18.7)	39	(18.1)	4058	(13.3)
	まったく楽しくない	630	(2.4)	352	(8.5)	7	(3.3)	989	(3.2)
	無回答	56	(.2)	9	(.2)	0	(.0)	65	(.2)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 611.615, df = 3, p = .000$ )									
全体	とても楽しい	18913	(36.6)	2960	(27.9)	174	(32.0)	22047	(35.1)
	どちらかといえば楽しい	24891	(48.2)	4807	(45.3)	259	(47.7)	29957	(47.7)
	あまり楽しくない	6283	(12.2)	1899	(17.9)	92	(16.9)	8274	(13.2)
	まったく楽しくない	1464	(2.8)	909	(8.6)	16	(2.9)	2389	(3.8)
	無回答	112	(.2)	32	(.3)	2	(.4)	146	(.2)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1186.092, df = 3, p = .000$ )									

表41 クラブ活動に参加していますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	積極的に参加している	18158	(71.1)	3849	(59.7)	219	(66.8)	22226	(68.8)
	消極的に参加している	2948	(11.5)	971	(15.1)	56	(17.1)	3975	(12.3)
	参加していない	4153	(16.3)	1553	(24.1)	48	(14.6)	5754	(17.8)
	無回答	265	(1.0)	77	(1.2)	5	(1.5)	347	(1.1)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 326.070, df = 2, p = .000$ )									
女性	積極的に参加している	18006	(69.0)	2155	(52.1)	135	(62.8)	20296	(66.6)
	消極的に参加している	3366	(12.9)	694	(16.8)	33	(15.3)	4093	(13.4)
	参加していない	4418	(16.9)	1216	(29.4)	44	(20.5)	5678	(18.6)
	無回答	321	(1.2)	71	(1.7)	3	(1.4)	395	(1.3)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 492.659, df = 2, p = .000$ )									
全体	積極的に参加している	36175	(70.0)	6012	(56.7)	354	(65.2)	42541	(67.7)
	消極的に参加している	6319	(12.2)	1668	(15.7)	89	(16.4)	8076	(12.9)
	参加していない	8577	(16.6)	2774	(26.2)	92	(16.9)	11443	(18.2)
	無回答	592	(1.1)	153	(1.4)	8	(1.5)	753	(1.2)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 756.765, df = 2, p = .000$ )									

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ( $p<0.01$ ) が認められ、「まったく楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では3~2%であり、経験者群では男女共に9%であり、経験者群に「楽しくない」傾向の者が有意に多いという解釈は弱いながらも成り立つ。

しかし、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれ14~3%、16~22% (表23) とは大きく異なっていた。

## (2) クラブ活動について

「放課後のクラブ活動 (部活) に参加していま

すか?」との問いに対する回答の関係を表41に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群との間には、回答の分布に有意差 ( $p<0.01$ ) が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は16~17%であったのに対して、経験者群では、男子で24%、女子で29%の者が「参加していない」を選んだ。経験者群で、放課後のクラブ活動 (部活) に参加していない者の割合が有意に多い傾向にあると解釈される。

しかしここでも、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれは、18%、31~38% (表24) であり、大

表42 週何回、家族全員で夕食を食べますか?

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	8186	(32.1)	1769	(27.4)	106	(32.3)	10061	(31.1)
	5 - 6回	2927	(11.5)	713	(11.1)	36	(11.0)	3676	(11.4)
	4回前後	2736	(10.7)	650	(10.1)	39	(11.9)	3425	(10.6)
	3回前後	2431	(9.5)	519	(8.0)	28	(8.5)	2978	(9.2)
	2回前後	4781	(18.7)	1019	(15.8)	46	(14.0)	5846	(18.1)
	ほとんど食べない	4293	(16.8)	1741	(27.0)	69	(21.0)	6103	(18.9)
	無回答	170	(.7)	39	(.6)	4	(1.2)	213	(.7)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 357.282, df = 5, p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日	8593	(32.9)	1155	(27.9)	72	(33.5)	9820	(32.2)
	5 - 6回	3006	(11.5)	379	(9.2)	19	(8.8)	3404	(11.2)
	4回前後	2619	(10.0)	375	(9.1)	13	(6.0)	3007	(9.9)
	3回前後	2369	(9.1)	332	(8.0)	16	(7.4)	2717	(8.9)
	2回前後	4921	(18.8)	643	(15.5)	44	(20.5)	5608	(18.4)
	ほとんど食べない	4433	(17.0)	1230	(29.7)	50	(23.3)	5713	(18.8)
	無回答	170	(.7)	22	(.5)	1	(.5)	193	(.6)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 384.206, df = 5, p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日	16789	(32.5)	2929	(27.6)	178	(32.8)	19896	(31.7)
	5 - 6回	5935	(11.5)	1093	(10.3)	55	(10.1)	7083	(11.3)
	4回前後	5356	(10.4)	1026	(9.7)	52	(9.6)	6434	(10.2)
	3回前後	4800	(9.3)	854	(8.1)	44	(8.1)	5698	(9.1)
	2回前後	9709	(18.8)	1665	(15.7)	90	(16.6)	11464	(18.3)
	ほとんど食べない	8734	(16.9)	2976	(28.1)	119	(21.9)	11829	(18.8)
	無回答	340	(.7)	64	(.6)	5	(.9)	409	(.7)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 724.052, df = 5, p = .000$ )									

大きく異なっていた。

### 3. 生涯喫煙経験と家庭生活について

#### (1) 家族との夕食頻度

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？」との問いに関する関係を表42に、また「母親と週何回くらい夕食を食べますか?」「父親と週何回

くらい夕食を食べますか?」の問いに対する関係を、それぞれ表43、表44に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、生涯喫煙経験者で家族全員との夕食頻度、母親との夕食頻度、父親との夕食頻度が低かった。しかし、その程度は、有機溶剤乱用経験の有無による場合よりは小さかった (表25~27参照)。

なお、ここでも有機溶剤乱用経験の有無による

表43 週何回、母親と夕食を食べますか?

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	16209	(63.5)	3335	(51.7)	192	(58.5)	19736	(61.1)
	5 - 6回	2990	(11.7)	792	(12.3)	39	(11.9)	3821	(11.8)
	4回前後	1989	(7.8)	627	(9.7)	27	(8.2)	2643	(8.2)
	3回前後	1100	(4.3)	352	(5.5)	16	(4.9)	1468	(4.5)
	2回前後	1107	(4.3)	378	(5.9)	15	(4.6)	1500	(4.6)
	ほとんど食べない	1293	(5.1)	642	(10.0)	22	(6.7)	1957	(6.1)
	母親がいない	446	(1.7)	258	(4.0)	6	(1.8)	710	(2.2)
	無回答	390	(1.5)	66	(1.0)	11	(3.4)	467	(1.4)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 502.974$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日	18073	(69.2)	2167	(52.4)	121	(56.3)	20361	(66.8)
	5 - 6回	2539	(9.7)	450	(10.9)	21	(9.8)	3010	(9.9)
	4回前後	1712	(6.6)	344	(8.3)	17	(7.9)	2073	(6.8)
	3回前後	942	(3.6)	213	(5.1)	14	(6.5)	1169	(3.8)
	2回前後	977	(3.7)	245	(5.9)	14	(6.5)	1236	(4.1)
	ほとんど食べない	1041	(4.0)	440	(10.6)	17	(7.9)	1498	(4.9)
	母親がいない	468	(1.8)	230	(5.6)	5	(2.3)	703	(2.3)
	無回答	359	(1.4)	47	(1.1)	6	(2.8)	412	(1.4)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 777.388$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日	34299	(66.4)	5513	(52.0)	313	(57.6)	40125	(63.9)
	5 - 6回	5530	(10.7)	1243	(11.7)	60	(11.0)	6833	(10.9)
	4回前後	3701	(7.2)	972	(9.2)	44	(8.1)	4717	(7.5)
	3回前後	2044	(4.0)	565	(5.3)	30	(5.5)	2639	(4.2)
	2回前後	2087	(4.0)	625	(5.9)	29	(5.3)	2741	(4.4)
	ほとんど食べない	2336	(4.5)	1083	(10.2)	39	(7.2)	3458	(5.5)
	母親がいない	916	(1.8)	490	(4.6)	11	(2.0)	1417	(2.3)
	無回答	750	(1.5)	116	(1.1)	17	(3.1)	883	(1.4)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1281.335$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									

の場合と同様に、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、この論理的矛盾は、我が国の父親が置かれた社会状況を反映していると同時に、家族全員での夕食と言ったときに、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを再度示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に少ないと解釈できる。

(2) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？」との問いに対する回答の分布を表45に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに統計学的有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、13~12%であるのに対

表44 週何回、父親と夕食を食べますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	7442	(29.2)	1617	(25.1)	102	(31.1)	9161	(28.4)
	5 - 6回	3161	(12.4)	755	(11.7)	39	(11.9)	3955	(12.2)
	4回前後	2914	(11.4)	679	(10.5)	43	(13.1)	3636	(11.3)
	3回前後	2354	(9.2)	488	(7.6)	22	(6.7)	2864	(8.9)
	2回前後	4001	(15.7)	858	(13.3)	47	(14.3)	4906	(15.2)
	ほとんど食べない	2802	(11.0)	1055	(16.4)	41	(12.5)	3898	(12.1)
	父親がいない	2436	(9.5)	912	(14.1)	28	(8.5)	3376	(10.5)
	無回答	414	(1.6)	86	(1.3)	6	(1.8)	506	(1.6)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 297.673$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
女性	ほとんど毎日	7419	(28.4)	976	(23.6)	56	(26.0)	8451	(27.7)
	5 - 6回	3181	(12.2)	353	(8.5)	23	(10.7)	3557	(11.7)
	4回前後	2797	(10.7)	368	(8.9)	22	(10.2)	3187	(10.5)
	3回前後	2389	(9.1)	293	(7.1)	15	(7.0)	2697	(8.9)
	2回前後	4087	(15.7)	530	(12.8)	32	(14.9)	4649	(15.3)
	ほとんど食べない	2918	(11.2)	772	(18.7)	29	(13.5)	3719	(12.2)
	父親がいない	2921	(11.2)	790	(19.1)	28	(13.0)	3739	(12.3)
	無回答	399	(1.5)	54	(1.3)	10	(4.7)	463	(1.5)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 463.408$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									
全体	ほとんど毎日	14868	(28.8)	2597	(24.5)	158	(29.1)	17623	(28.1)
	5 - 6回	6346	(12.3)	1109	(10.5)	62	(11.4)	7517	(12.0)
	4回前後	5711	(11.1)	1047	(9.9)	65	(12.0)	6823	(10.9)
	3回前後	4747	(9.2)	783	(7.4)	37	(6.8)	5567	(8.9)
	2回前後	8094	(15.7)	1393	(13.1)	79	(14.5)	9566	(15.2)
	ほとんど食べない	5724	(11.1)	1829	(17.2)	70	(12.9)	7623	(12.1)
	父親がいない	5359	(10.4)	1706	(16.1)	56	(10.3)	7121	(11.3)
	無回答	814	(1.6)	143	(1.3)	16	(2.9)	973	(1.5)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 690.738$ , $df = 6$ , $p = .000$ )									

して、経験者群では23～24%であった。

経験者群で大人不在の時間が有意に長い傾向が示唆された。

この傾向は、有機溶剤乱用の経験の有無の場合と同様であるが、「シンナー遊び」経験者群で「3時間以上」を選んだ者の割合は、男子で27%、女子で30%（表28）であり、有機溶剤経験者群と喫煙経験者群とでは、その差は4～6%と少なかった。

### (3) 親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？」との問いに対する回答の分布を表46に示した。

男女ともに、回答の分布に有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で41%、女子で33%であるのに対して、経験者群ではそれぞれ53%、45%であった。

この結果は、有機溶剤乱用の有無による場合（表29）と、さほど違いがない結果であった。

同時に、喫煙経験の有無に関わらず、男女ともに「よく相談する方である」と答えた者が少ないのも、有機溶剤乱用経験の有無による場合と同じであった。

表45 一日の大人不在の平均時間

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	なし、あるいはほとんどなし	8733	(34.2)	1752	(27.2)	104	(31.7)	10589	(32.8)
	1時間未満	5198	(20.4)	1080	(16.7)	53	(16.2)	6331	(19.6)
	1時間以上2時間未満	5025	(19.7)	1167	(18.1)	64	(19.5)	6256	(19.4)
	2時間以上3時間未満	3132	(12.3)	919	(14.2)	42	(12.8)	4093	(12.7)
	3時間以上	3282	(12.9)	1481	(23.0)	60	(18.3)	4823	(14.9)
	無回答	154	(.6)	51	(.8)	5	(1.5)	210	(.7)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 488.429, df = 4, p = .000$ )									
女性	なし、あるいはほとんどなし	10567	(40.5)	1200	(29.0)	64	(29.8)	11831	(38.8)
	1時間未満	4430	(17.0)	593	(14.3)	33	(15.3)	5056	(16.6)
	1時間以上2時間未満	4613	(17.7)	619	(15.0)	42	(19.5)	5274	(17.3)
	2時間以上3時間未満	3109	(11.9)	576	(13.9)	27	(12.6)	3712	(12.2)
	3時間以上	3225	(12.4)	1098	(26.5)	43	(20.0)	4366	(14.3)
	無回答	167	(.6)	50	(1.2)	6	(2.8)	223	(.7)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 668.447, df = 4, p = .000$ )									
全体	なし、あるいはほとんどなし	19307	(37.4)	2956	(27.9)	168	(30.9)	22431	(35.7)
	1時間未満	9631	(18.6)	1676	(15.8)	86	(15.8)	11393	(18.1)
	1時間以上2時間未満	9644	(18.7)	1788	(16.9)	106	(19.5)	11538	(18.4)
	2時間以上3時間未満	6244	(12.1)	1495	(14.1)	69	(12.7)	7808	(12.4)
	3時間以上	6515	(12.6)	2587	(24.4)	103	(19.0)	9205	(14.7)
	無回答	322	(.6)	105	(1.0)	11	(2.0)	438	(.7)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1143.644, df = 4, p = .000$ )									

表46 親と相談するか

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男 性	よく相談する	2479	(9.7)	346	(5.4)	14	(4.3)	2839	(8.8)
	どちらかといえば相談する	5585	(21.9)	849	(13.2)	48	(14.6)	6482	(20.1)
	どちらかといえば相談しない	6899	(27.0)	1750	(27.1)	69	(21.0)	8718	(27.0)
	ほとんど相談しない	10420	(40.8)	3404	(52.8)	126	(38.4)	13950	(43.2)
	親がない	71	(.3)	72	(1.1)	0	(.0)	143	(.4)
	無回答	70	(.3)	29	(.4)	71	(21.6)	170	(.5)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 556.219$ , $df = 4$ , $p = .000$ )									
女 性	よく相談する	4177	(16.0)	441	(10.7)	22	(10.2)	4640	(15.2)
	どちらかといえば相談する	7188	(27.5)	811	(19.6)	40	(18.6)	8039	(26.4)
	どちらかといえば相談しない	6162	(23.6)	965	(23.3)	53	(24.7)	7180	(23.6)
	ほとんど相談しない	8486	(32.5)	1851	(44.8)	65	(30.2)	10402	(34.1)
	親がない	59	(.2)	59	(1.4)	1	(.5)	119	(.4)
	無回答	39	(.1)	9	(.2)	34	(15.8)	82	(.3)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 440.351$ , $df = 4$ , $p = .000$ )									
全 体	よく相談する	6658	(12.9)	788	(7.4)	36	(6.6)	7482	(11.9)
	どちらかといえば相談する	12777	(24.7)	1664	(15.7)	88	(16.2)	14529	(23.1)
	どちらかといえば相談しない	13073	(25.3)	2720	(25.6)	122	(22.5)	15915	(25.3)
	ほとんど相談しない	18916	(36.6)	5265	(49.6)	191	(35.2)	24372	(38.8)
	親がない	130	(.3)	132	(1.2)	1	(.2)	263	(.4)
	無回答	109	(.2)	38	(.4)	105	(19.3)	252	(.4)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1121.596$ , $df = 4$ , $p = .000$ )									

表47 親しく遊べる友人はいますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	いる	24473	(95.9)	6164	(95.6)	311	(94.8)	30948	(95.8)
	いない	1006	(3.9)	271	(4.2)	14	(4.3)	1291	(4.0)
	無回答	45	(.2)	15	(.2)	3	(.9)	63	(.2)
	合計	25524	(100.0)	6450	(100.0)	328	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = .925$ , $df = 1$ , $p = .336$ )									
女性	いる	25199	(96.5)	3901	(94.3)	205	(95.3)	29305	(96.2)
	いない	858	(3.3)	220	(5.3)	8	(3.7)	1086	(3.6)
	無回答	54	(.2)	15	(.4)	2	(.9)	71	(.2)
	合計	26111	(100.0)	4136	(100.0)	215	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 43.232$ , $df = 1$ , $p = .000$ )									
全体	いる	49698	(96.2)	10081	(95.0)	516	(95.0)	60295	(96.0)
	いない	1865	(3.6)	494	(4.7)	22	(4.1)	2381	(3.8)
	無回答	100	(.2)	32	(.3)	5	(.9)	137	(.2)
	合計	51663	(100.0)	10607	(100.0)	543	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 26.715$ , $df = 1$ , $p = .000$ )									

#### 4. 喫煙と友人関係について

##### (1) 遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表47に示した。

男女ともに、「いない」と答えた者は経験者群で多い傾向が伺え、女子では経験者群と非経験者群との間に有意差 ( $p<0.01$ ) が認められた。しかし、数字からは、ほとんど差がないと解釈した方が現実的のように思われる結果であった。

##### (2) 相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表48に示した。

男女共に、経験者群・非経験者群間での%の違いはさほどなかったが、女子では経験者群の方で「いない」と答えた者が有意に多かった反面、男子では有意差こそないものの、「いない」と答えた者は非経験者群の方でわずかに多かった。

### 3. 飲酒について

わが国では、中学生といえども、飲酒の生涯経験率(これまでに1回でも飲酒したことのある率)は、男子では約75%、女子では68%と高く<sup>7)8)</sup>、飲酒機会から見たその内容は、「冠婚葬祭時」及び「家で家族と共に」の飲酒が多い<sup>7)8)</sup>こともあり、飲酒の生涯経験から中学生の飲酒を論じて、ほとんど意味がないため<sup>7)8)</sup>、本報告書では、飲酒機会ごとの生涯経験率を表49、「シンナー遊び」の経験と飲酒の経験・機会を表50に示すのみとした。

飲酒の生涯経験者の割合は、機会に関わらず、男女ともに、学年が進むにつれて、増加していた。機会別では、男女共に「冠婚葬祭時」「家族と食事などで」での飲酒経験率が高かった。しかし、3年生で「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」での飲酒経験率が急増してた(表49)。

機会別では、男女共に「冠婚葬祭時」「家族と食事などで」での飲酒経験率が高かった。しかし、3年生で「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」での飲酒経験率が急増してた(表49)。

機会別では、男女共に「冠婚葬祭時」「家族と食事などで」での飲酒経験率が高かった。しかし、3年生で「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」での飲酒経験率が急増してた(表49)。

### 4. 「シンナー遊び」と他の依存性薬物使用との関係

#### 1. 「シンナー遊び」と飲酒との関係

「シンナー遊び」の経験の有無と生涯飲酒経験率及びその機会との関係を表50に示した。

男女共に、飲酒経験のない者は「シンナー遊び」未経験者群で有意 ( $p<0.01$ ) に多かった。

表48 相談事のできる友人はいますか？

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	いる	20461 (80.2)	5227 (81.0)	257 (78.4)	25945 (80.3)	
	いない	4937 (19.3)	1190 (18.4)	63 (19.2)	6190 (19.2)	
	無回答	126 (.5)	33 (.5)	8 (2.4)	167 (.5)	
	合計	25524 (100.0)	6450 (100.0)	328 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 2.633, df = 1, p = .105$ )						
女性	いる	23364 (89.5)	3574 (86.4)	183 (85.1)	27121 (89.0)	
	いない	2643 (10.1)	536 (13.0)	28 (13.0)	3207 (10.5)	
	無回答	104 (.4)	26 (.6)	4 (1.9)	134 (.4)	
	合計	26111 (100.0)	4136 (100.0)	215 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = 31.152, df = 1, p = .000$ )						
全体	いる	43844 (84.9)	8816 (83.1)	440 (81.0)	53100 (84.5)	
	いない	7588 (14.7)	1729 (16.3)	91 (16.8)	9408 (15.0)	
	無回答	231 (.4)	62 (.6)	12 (2.2)	305 (.5)	
	合計	51663 (100.0)	10607 (100.0)	543 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 18.492, df = 1, p = .000$ )						

また、男子の「冠婚葬祭時」を除けば、全ての場において有機溶剤乱用経験者群で飲酒経験率が有意に高かった（表50）。特に「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」「一人で」での両群の違いは著しく、大人の同席しない場での飲酒問題を改めた確認することとなった<sup>7)17)</sup>。

家族の要因は解釈が難しいが、上記の結果は、「シンナー遊び」における「仲間」の存在とその影響力の大きさの一側面を物語っていると解釈さ

れる。

## 2. 「シンナー遊び」と喫煙との関係

「シンナー遊び」の経験の有無と、喫煙経験の有無との関係を表51に示した。

「シンナー遊び」の経験の有無と喫煙経験の有無の間には、男女共に有意差が認められた（ $P < 0.01$ ）。つまり、喫煙経験は、「シンナー遊び」経

表49 飲酒の生涯経験率

	1年	2年	3年	全体
<b>男性</b>				
飲んだ経験なし	4480 (42.2)	3555 (34.1)	3372 (30.5)	11407 (35.6) ( $\chi^2 = 335.139, df=2, p= .000$ )
冠婚葬祭	3686 (34.8)	4262 (40.9)	4572 (41.4)	12520 (39.0) ( $\chi^2 = 124.202, df=2, p= .000$ )
家族と食事などで	3238 (30.5)	3721 (35.7)	4162 (37.7)	11121 (34.7) ( $\chi^2 = 130.777, df=2, p= .000$ )
クラス会、打ち上げなど	481 (4.5)	557 (5.3)	1115 (10.1)	2153 (6.7) ( $\chi^2 = 313.804, df=2, p= .000$ )
カラオケ、居酒屋など	247 (2.3)	303 (2.9)	533 (4.8)	1083 (3.4) ( $\chi^2 = 114.034, df=2, p= .000$ )
自分の部屋など	317 (3.0)	589 (5.6)	1348 (12.2)	2254 (7.0) ( $\chi^2 = 748.869, df=2, p= .000$ )
一人で	470 (4.4)	654 (6.3)	1140 (10.3)	2264 (7.1) ( $\chi^2 = 301.199, df=2, p= .000$ )
その他の機会に	3713 (35.0)	4486 (43.0)	5412 (49.0)	13611 (42.4)
無回答	2 (.0)	2 (.0)	1 (.0)	5 (.0)
合計	10605 (100.0)	10428 (100.0)	11052 (100.0)	32085 (100.0)
<b>女性</b>				
飲んだ経験なし	4546 (46.2)	3774 (37.8)	3467 (33.1)	11787 (38.9) ( $\chi^2 = 372.624, df=2, p= .000$ )
冠婚葬祭	3212 (32.6)	3684 (36.9)	4096 (39.1)	10992 (36.2) ( $\chi^2 = 94.655, df=2, p= .000$ )
家族と食事などで	3159 (32.1)	3860 (38.6)	4419 (42.2)	11438 (37.7) ( $\chi^2 = 225.653, df=2, p= .000$ )
クラス会、打ち上げなど	305 (3.1)	476 (4.8)	972 (9.3)	1753 (5.8) ( $\chi^2 = 384.511, df=2, p= .000$ )
カラオケ、居酒屋など	262 (2.7)	310 (3.1)	586 (5.6)	1158 (3.8) ( $\chi^2 = 139.829, df=2, p= .000$ )
自分の部屋など	268 (2.7)	607 (6.1)	1133 (10.8)	2008 (6.6) ( $\chi^2 = 545.035, df=2, p= .000$ )
一人で	336 (3.4)	540 (5.4)	708 (6.8)	1584 (5.2) ( $\chi^2 = 115.763, df=2, p= .000$ )
その他の機会に	3296 (33.5)	4354 (43.6)	5260 (50.2)	12910 (42.6)
無回答	2 (.0)	(.0) (.0)	1 (.0)	3 (.0)
合計	9848 (100.0)	9995 (100.0)	10481 (100.0)	30324 (100.0)
<b>全体</b>				
飲んだ経験なし	9027 (44.1)	7331 (35.9)	6844 (31.7)	23202 (37.1) ( $\chi^2 = 702.529, df=2, p= .000$ )
冠婚葬祭	6904 (33.7)	7951 (38.9)	8679 (40.3)	23534 (37.7) ( $\chi^2 = 212.604, df=2, p= .000$ )
家族と食事などで	6401 (31.3)	7586 (37.1)	8591 (39.9)	22578 (36.1) ( $\chi^2 = 350.286, df=2, p= .000$ )
クラス会、打ち上げなど	786 (3.8)	1035 (5.1)	2089 (9.7)	3910 (6.3) ( $\chi^2 = 687.813, df=2, p= .000$ )
カラオケ、居酒屋など	511 (2.5)	614 (3.0)	1121 (5.2)	2246 (3.6) ( $\chi^2 = 252.631, df=2, p= .000$ )
自分の部屋など	586 (2.9)	1197 (5.9)	2484 (11.5)	4267 (6.8) ( $\chi^2 = 1284.390, df=2, p= .000$ )
一人で	808 (3.9)	1196 (5.9)	1852 (8.6)	3856 (6.2) ( $\chi^2 = 397.371, df=2, p= .000$ )
その他の機会に	7018 (34.3)	8845 (43.3)	10686 (49.6)	26549 (42.5)
無回答	4 (.0)	2 (.0)	2 (.0)	8 (.0)
合計	20466 (100.0)	20436 (100.0)	21556 (100.0)	62458 (100.0)

験者群に有意に多い。「シンナ - 遊び」未経験者群での喫煙経験者は、男子で19%、女子で13%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、男子で58%、女子で62%と、両群間には著しい違いがあった。

一方、喫煙経験の有無から「シンナー遊び」の遊び」の経験の有無を見たのが、表52である。喫煙経験のない者の中で有機溶剤乱用経験がある者

は、男子で0.7%、女子で0.4%に過ぎないが、喫煙経験のある者では男子で4.1%、女子で4.7%であり、両群には有意差が認められた。

これらは、中学生にとっての喫煙が「シンナー遊び」と強い繋がりを持っていることを強く示唆するものである<sup>3)</sup>。

表50 「シンナ-遊び」経験と飲酒の経験・機会（複数回答）

	生涯シンナー経験			全体	
	経験なし	経験あり	無回答		
<b>男性</b>					
飲んだ経験なし	11298 (35.9)	60 (13.5)	49 (26.9)	11407 (35.6)	( $\chi^2=97.497, df=1, p=.000$ )
冠婚葬祭	12272 (39.0)	177 (39.8)	71 (39.0)	12520 (39.0)	( $\chi^2=.053, df=1, p=.818$ )
家族と食事などで	10866 (34.5)	197 (44.3)	58 (31.9)	11121 (34.7)	( $\chi^2=17.469, df=1, p=.000$ )
クラス会、打ち上げなど	2047 (6.5)	87 (19.6)	19 (10.4)	2153 (6.7)	( $\chi^2=118.202, df=1, p=.000$ )
カラオケ、居酒屋など	993 (3.2)	77 (17.3)	13 (7.1)	1083 (3.4)	( $\chi^2=268.632, df=1, p=.000$ )
自分の部屋など	2102 (6.7)	127 (28.5)	25 (13.7)	2254 (7.0)	( $\chi^2=319.534, df=1, p=.000$ )
一人で	2115 (6.7)	134 (30.1)	15 (8.2)	2264 (7.1)	( $\chi^2=362.938, df=1, p=.000$ )
その他の機会に	13308 (42.3)	212 (47.6)	91 (50.0)	13611 (42.4)	
無回答	2 (.0)	0 (.0)	3 (1.6)	5 (.0)	
合計	31458 (100.0)	445 (100.0)	182 (100.0)	32085 (100.0)	
<b>女性</b>					
飲んだ経験なし	11731 (39.2)	32 (10.2)	24 (21.2)	11787 (38.9)	( $\chi^2=109.071, df=1, p=.000$ )
冠婚葬祭	10806 (36.1)	148 (47.1)	38 (33.6)	10992 (36.2)	( $\chi^2=17.038, df=1, p=.000$ )
家族と食事などで	11219 (37.5)	166 (52.9)	53 (46.9)	11438 (37.7)	( $\chi^2=32.3311, df=1, p=.000$ )
クラス会、打ち上げなど	1656 (5.5)	79 (25.2)	18 (15.9)	1753 (5.8)	( $\chi^2=223.208, df=1, p=.000$ )
カラオケ、居酒屋など	1053 (3.5)	93 (29.6)	12 (10.6)	1158 (3.8)	( $\chi^2=584.584, df=1, p=.000$ )
自分の部屋など	1871 (6.3)	116 (36.9)	21 (18.6)	2008 (6.6)	( $\chi^2=480.473, df=1, p=.000$ )
一人で	1466 (4.9)	105 (33.4)	13 (11.5)	1584 (5.2)	( $\chi^2=517.731, df=1, p=.000$ )
その他の機会に	12687 (42.4)	162 (51.6)	61 (54.0)	12910 (42.6)	
無回答	1 (.0)	0 (.0)	2 (1.8)	3 (.0)	
合計	29897 (100.0)	314 (100.0)	113 (100.0)	30324 (100.0)	
<b>全体</b>					
飲んだ経験なし	23036 (37.5)	92 (12.0)	74 (25.0)	23202 (37.1)	( $\chi^2=209.426, df=1, p=.000$ )
冠婚葬祭	23099 (37.6)	326 (42.6)	109 (36.8)	23534 (37.7)	( $\chi^2=8.245, df=1, p=.000$ )
家族と食事などで	22102 (36.0)	365 (47.7)	111 (37.5)	22578 (36.1)	( $\chi^2=45.479, df=1, p=.000$ )
クラス会、打ち上げなど	3707 (6.0)	166 (21.7)	37 (12.5)	3910 (6.3)	( $\chi^2=318.202, df=1, p=.000$ )
カラオケ、居酒屋など	2050 (3.3)	171 (22.3)	25 (8.4)	2246 (3.6)	( $\chi^2=794.761, df=1, p=.000$ )
自分の部屋など	3977 (6.5)	244 (31.9)	46 (15.5)	4267 (6.8)	( $\chi^2=773.311, df=1, p=.000$ )
一人で	3588 (5.8)	240 (31.3)	28 (9.5)	3856 (6.2)	( $\chi^2=854.257, df=1, p=.000$ )
その他の機会に	26019 (42.4)	378 (49.3)	152 (51.4)	26549 (42.5)	
無回答	3 (.0)	0 (.0)	5 (1.7)	8 (.0)	
合計	61396 (100.0)	766 (100.0)	296 (100.0)	62458 (100.0)	

### 3. 「シナ-遊び」と大麻乱用との関係

#### (1) 大麻乱用の生涯経験率について

各学年・性別毎に大麻乱用の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことがある率）を表53に示した。

男女ともに、2年生で生涯経験率が最も高い結果であった。生涯経験率は男子では0.6%（1年生で0.4%、2年生で0.8%、3年生で0.7%）であり、女子では0.4%（1年生で0.3%、2年生で0.6%、3年生で0.4%）であった。

この生涯経験率の年次推移は考察で論じる。

表51 「シナ-遊び」経験と喫煙経験の関係

		生涯シナ-経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	喫煙経験なし	25234 (79.9)	184 (40.9)	106 (41.7)	25524 (79.0)	
	喫煙経験あり	6126 (19.4)	263 (58.4)	61 (24.0)	6450 (20.0)	
	無回答	238 (.8)	3 (.7)	87 (34.3)	328 (1.0)	
	合計	31598 (100.0)	450 (100.0)	254 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 424.099, df = 1, p = .000$ )						
女性	喫煙経験なし	25920 (86.4)	115 (36.6)	76 (52.4)	26111 (85.7)	
	喫煙経験あり	3915 (13.0)	195 (62.1)	26 (17.9)	4136 (13.6)	
	無回答	168 (.6)	4 (1.3)	43 (29.7)	215 (.7)	
	合計	30003 (100.0)	314 (100.0)	145 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = 645.701, df = 1, p = .000$ )						
全体	喫煙経験なし	51180 (83.0)	300 (38.9)	183 (45.8)	51663 (82.2)	
	喫煙経験あり	10056 (16.3)	464 (60.2)	87 (21.8)	10607 (16.9)	
	無回答	406 (.7)	7 (.9)	130 (32.5)	543 (.9)	
	合計	61642 (100.0)	771 (100.0)	400 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 1051.637, df = 1, p = .000$ )						

表52 喫煙経験と「シナ-遊び」経験の関係

生涯シナ-経験		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	経験なし	25234 (98.9)	6126 (95.0)	238 (72.6)	31598 (97.8)	
	経験あり	184 (.7)	263 (4.1)	3 (.9)	450 (1.4)	
	無回答	106 (.4)	61 (.9)	87 (26.5)	254 (.8)	
	合計	25524 (100.0)	6450 (100.0)	328 (100.0)	32302 (100.0)	
( $\chi^2 = 424.099, df = 1, p = .000$ )						
女性	経験なし	25920 (99.3)	3915 (94.7)	168 (78.1)	30003 (98.5)	
	経験あり	115 (.4)	195 (4.7)	4 (1.9)	314 (1.0)	
	無回答	76 (.3)	26 (.6)	43 (20.0)	145 (.5)	
	合計	26111 (100.0)	4136 (100.0)	215 (100.0)	30462 (100.0)	
( $\chi^2 = 645.701, df = 1, p = .000$ )						
全体	経験なし	51180 (99.1)	10056 (94.8)	406 (74.8)	61642 (98.1)	
	経験あり	300 (.6)	464 (4.4)	7 (1.3)	771 (1.2)	
	無回答	183 (.4)	87 (.8)	130 (23.9)	400 (.6)	
	合計	51663 (100.0)	10607 (100.0)	543 (100.0)	62813 (100.0)	
( $\chi^2 = 1051.637, df = 1, p = .000$ )						

(2) 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験との関係を表54に示した。

結果には男女ともに有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「シンナー遊び」未経験者では、男子で0.3%、女子で0.1%の者が大麻乱用の経験があると答えた

のに対して、経験者群では、男子で24.2%、女子で25.5%の者が大麻乱用の経験があると答えた。

この両群による違いは、1996年調査、1998調査、2000年調査の結果と同じ傾向であり、中学生における「シンナー遊び」と大麻乱用との関係が強く示唆された。

表53 大麻乱用の生涯経験率

		1年		2年		3年		全体	
男性	大麻経験なし	10555	(98.6)	10301	(98.2)	10912	(98.3)	31768	(98.3)
	大麻経験あり	43	(.4)	79	(.8)	74	(.7)	196	(.6)
	無回答	109	(1.0)	112	(1.1)	117	(1.1)	338	(1.0)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 11.867$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
女性	大麻経験なし	9802	(98.9)	9927	(98.9)	10389	(98.8)	30118	(98.9)
	大麻経験あり	29	(.3)	55	(.5)	40	(.4)	124	(.4)
	無回答	79	(.8)	57	(.6)	84	(.8)	220	(.7)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 8.223$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									
全体	大麻経験なし	20367	(98.7)	20240	(98.5)	21323	(98.5)	61930	(98.6)
	大麻経験あり	75	(.4)	135	(.7)	115	(.5)	325	(.5)
	無回答	188	(.9)	169	(.8)	201	(.9)	558	(.9)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 17.309$ , $df = 2$ , $p = .000$ )									

表54 「シンナー遊び」経験と大麻乱用経験

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	大麻経験なし	31232	(98.8)	332	(73.8)	204	(80.3)	31768	(98.3)
	大麻経験あり	82	(.3)	109	(24.2)	5	(2.0)	196	(.6)
	無回答	284	(.9)	9	(2.0)	45	(17.7)	338	(1.0)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 4349.989$ , $df = 1$ , $p = .000$ )									
女性	大麻経験なし	29771	(99.2)	231	(73.6)	116	(80.0)	30118	(98.9)
	大麻経験あり	40	(.1)	80	(25.5)	4	(2.8)	124	(.4)
	無回答	192	(.6)	3	(1.0)	25	(17.2)	220	(.7)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 5079.324$ , $df = 1$ , $p = .000$ )									
全体	大麻経験なし	61044	(99.0)	565	(73.3)	321	(80.3)	61930	(98.6)
	大麻経験あり	122	(.2)	194	(25.2)	9	(2.3)	325	(.5)
	無回答	476	(.8)	12	(1.6)	70	(17.5)	558	(.9)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 9497.338$ , $df = 1$ , $p = .000$ )									

表55 大麻を吸うことをどう思いますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	吸うべきではない	30187	(95.5)	307	(68.2)	211	(83.1)	30705	(95.1)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	528	(1.7)	48	(10.7)	13	(5.1)	589	(1.8)
	全く構わない	594	(1.9)	84	(18.7)	8	(3.1)	686	(2.1)
	無回答	289	(.9)	11	(2.4)	22	(8.7)	322	(1.0)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
									( $\chi^2 = 838.011, df = 2, p = .000$ )
女性	吸うべきではない	28924	(96.4)	191	(60.8)	125	(86.2)	29240	(96.0)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	529	(1.8)	43	(13.7)	4	(2.8)	576	(1.9)
	全く構わない	320	(1.1)	70	(22.3)	4	(2.8)	394	(1.3)
	無回答	230	(.8)	10	(3.2)	12	(8.3)	252	(.8)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
									( $\chi^2 = 1396.966, df = 2, p = .000$ )
全体	吸うべきではない	59144	(95.9)	501	(65.0)	337	(84.3)	59982	(95.5)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	1061	(1.7)	91	(11.8)	17	(4.3)	1169	(1.9)
	全く構わない	917	(1.5)	158	(20.5)	12	(3.0)	1087	(1.7)
	無回答	520	(.8)	21	(2.7)	34	(8.5)	575	(.9)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
									( $\chi^2 = 2131.765, df = 2, p = .000$ )

表56 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	知っている	16575	(52.5)	240	(53.3)	112	(44.1)	16927	(52.4)
	知らない	14343	(45.4)	188	(41.8)	114	(44.9)	14645	(45.3)
	無回答	680	(2.2)	22	(4.9)	28	(11.0)	730	(2.3)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
									( $\chi^2 = 1.032, df = 1, p = .310$ )
女性	知っている	16946	(56.5)	179	(57.0)	64	(44.1)	17189	(56.4)
	知らない	12679	(42.3)	119	(37.9)	70	(48.3)	12868	(42.2)
	無回答	378	(1.3)	16	(5.1)	11	(7.6)	405	(1.3)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
									( $\chi^2 = .990, df = 1, p = .320$ )
全体	知っている	33544	(54.4)	423	(54.9)	176	(44.0)	34143	(54.4)
	知らない	27038	(43.9)	309	(40.1)	185	(46.3)	27532	(43.8)
	無回答	1060	(1.7)	39	(5.1)	39	(9.8)	1138	(1.8)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
									( $\chi^2 = 1.710, df = 1, p = .191$ )

(3)大麻吸引に対する意識について

「大麻を吸うことをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表55に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。「シンナー遊び」未経験者群では、男女共に96%の者が「吸うべきではないと思う」

を選んだのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、それを選んだ者は、男子で68%、女子で61%であり、19~20%の者が「まったくかまわないと

で25.5%の者が大麻乱用の経験があると答えた。この両群による違いは、過去3回の調査結果と同じであり、中学生における有機溶剤乱用と大麻乱用との関係を強く示唆するものである。

表57 覚せい剤の乱用経験（生涯経験率）

		1年		2年		3年		全体	
男性	覚せい剤経験なし	10547	(98.5)	10324	(98.4)	10932	(98.5)	31803	(98.5)
	覚せい剤経験あり	40	(.4)	62	(.6)	57	(.5)	159	(.5)
	無回答	120	(1.1)	106	(1.0)	114	(1.0)	340	(1.1)
	合計	10707	(100.0)	10492	(100.0)	11103	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 5.239, df = 2, p = .000$ )									
女性	覚せい剤経験なし	9784	(98.7)	9898	(98.6)	10381	(98.7)	30063	(98.7)
	覚せい剤経験あり	26	(.3)	43	(.4)	41	(.4)	110	(.4)
	無回答	100	(1.0)	98	(1.0)	91	(.9)	289	(.9)
	合計	9910	(100.0)	10039	(100.0)	10513	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 4.179, df = 2, p = .000$ )									
全体	覚せい剤経験なし	20339	(98.6)	20234	(98.5)	21334	(98.6)	61907	(98.6)
	覚せい剤経験あり	69	(.3)	106	(.5)	99	(.5)	274	(.4)
	無回答	222	(1.1)	204	(1.0)	206	(1.0)	632	(1.0)
	合計	20630	(100.0)	20544	(100.0)	21639	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 8.116, df = 2, p = .000$ )									

表58 「シンナー遊び」経験と覚せい剤乱用経験の関係

		生涯シンナー経験			全体				
		経験なし	経験あり	無回答					
男性	覚せい剤経験なし	31247	(98.9)	354	(78.7)	202	(79.5)	31803	(98.5)
	覚せい剤経験あり	70	(.2)	86	(19.1)	3	(1.2)	159	(.5)
	無回答	281	(.9)	10	(2.2)	49	(19.3)	340	(1.1)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 3313.966, df = 1, p = .000$ )									
女性	覚せい剤経験なし	29704	(99.0)	237	(75.5)	122	(84.1)	30063	(98.7)
	覚せい剤経験あり	39	(.1)	71	(22.6)	0	(.0)	110	(.4)
	無回答	260	(.9)	6	(1.9)	23	(15.9)	289	(.9)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 4391.328, df = 1, p = .000$ )									
全体	覚せい剤経験なし	60989	(98.9)	593	(76.9)	325	(81.3)	61907	(98.6)
	覚せい剤経験あり	109	(.2)	162	(21.0)	3	(.8)	274	(.4)
	無回答	544	(.9)	16	(2.1)	72	(18.0)	632	(1.0)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 7740.977, df = 1, p = .000$ )									

#### 4. 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用との関係

##### (1) 覚せい剤乱用の生涯経験率について

覚せい剤乱用の生涯経験率（これまでに1回でも経験したことがある者の率）を表57に示した。

覚せい剤の生涯経験率は、男子では0.5%（1年生0.4%、2年生0.6%、3年生0.5%）で、女子では0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.4%）であり、全体では0.4%（0.3%、0.5%、0.5%）であった。

この生涯経験率の年次推移は考察で論じる。

##### (4) 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用経験との関係

「シンナー遊び」の経験と覚せい剤乱用経験との関係を表58に示した。

「シンナー遊び」未経験者では、覚せい剤乱用の経験があると選んだ者は、男子で0.2%、女子で0.1%、全体で0.2%であったのに対して、「シンナー遊び」経験者では、男子で19.1%、女子で22.6%の者が、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ。

これも、過去3回の本調査と同じ結果であり、大麻同様、中学生における「シンナー遊び」と覚

せい剤乱用との関係を強く示唆するものであった。

##### (5) 覚せい剤乱用による医学的害について

「覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表59に示した。

「知っている」を選んだ者は男女ともに有機溶剤乱用非経験者群の方がわずかに多かったが、統計学的有意差は認められなかった。

それにしても、有機溶剤乱用経験の有無に関わらず、「知っている」者の割合は決して高いとは言えず、今後の薬物乱用防止教育の課題であると解釈された。

##### 1. 違法薬物の入手可能性について

##### (1) 乱用のための有機溶剤の入手可能性について

乱用のための有機溶剤の入手可能性についての回答の分布を表60に示した。

表59 覚せい剤を使うと精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	知っている	18362	(58.1)	243	(54.0)	129	(50.8)	18734	(58.0)
	知らない	12860	(40.7)	190	(42.2)	107	(42.1)	13157	(40.7)
	無回答	376	(1.2)	17	(3.8)	18	(7.1)	411	(1.3)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 1.276$ , $df = 1$ , $p = .259$ )									
女性	知っている	19711	(65.7)	205	(65.3)	75	(51.7)	19991	(65.6)
	知らない	10070	(33.6)	102	(32.5)	62	(42.8)	10234	(33.6)
	無回答	222	(.7)	7	(2.2)	8	(5.5)	237	(.8)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = .047$ , $df = 1$ , $p = .828$ )									
全体	知っている	38100	(61.8)	452	(58.6)	204	(51.0)	38756	(61.7)
	知らない	22943	(37.2)	294	(38.1)	170	(42.5)	23407	(37.3)
	無回答	599	(1.0)	25	(3.2)	26	(6.5)	650	(1.0)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 1.046$ , $df = 1$ , $p = .306$ )									

表60 有機溶剤の入手可能性

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	簡単に手に入る	6689	(21.2)	212	(47.1)	63	(24.8)	6964	(21.6)
	少々苦勞するが手に入る	5327	(16.9)	89	(19.8)	34	(13.4)	5450	(16.9)
	ほとんど不可能	5683	(18.0)	45	(10.0)	36	(14.2)	5764	(17.8)
	絶対不可能	13153	(41.6)	93	(20.7)	90	(35.4)	13336	(41.3)
	無回答	746	(2.4)	11	(2.4)	31	(12.2)	788	(2.4)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 204.058, df = 3, p = .000$ )									
女性	簡単に手に入る	4754	(15.8)	150	(47.8)	23	(15.9)	4927	(16.2)
	少々苦勞するが手に入る	6053	(20.2)	71	(22.6)	30	(20.7)	6154	(20.2)
	ほとんど不可能	5558	(18.5)	26	(8.3)	26	(17.9)	5610	(18.4)
	絶対不可能	12932	(43.1)	60	(19.1)	49	(33.8)	13041	(42.8)
	無回答	706	(2.4)	7	(2.2)	17	(11.7)	730	(2.4)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 255.854, df = 3, p = .000$ )									
全体	簡単に手に入る	11452	(18.6)	364	(47.2)	87	(21.8)	11903	(18.9)
	少々苦勞するが手に入る	11391	(18.5)	161	(20.9)	64	(16.0)	11616	(18.5)
	ほとんど不可能	11244	(18.2)	72	(9.3)	62	(15.5)	11378	(18.1)
	絶対不可能	26101	(42.3)	155	(20.1)	139	(34.8)	26395	(42.0)
	無回答	1454	(2.4)	19	(2.5)	48	(12.0)	1521	(2.4)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 455.424, df = 3, p = .000$ )									

表61 大麻の入手可能性

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	簡単に手に入る	2998	(9.5)	125	(27.8)	38	(15.0)	3161	(9.8)
	少々苦勞するが手に入る	4825	(15.3)	94	(20.9)	28	(11.0)	4947	(15.3)
	ほとんど不可能	6621	(21.0)	74	(16.4)	46	(18.1)	6741	(20.9)
	絶対不可能	16483	(52.2)	146	(32.4)	110	(43.3)	16739	(51.8)
	無回答	671	(2.1)	11	(2.4)	32	(12.6)	714	(2.2)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 199.637, df = 3, p = .000$ )									
女性	簡単に手に入る	2370	(7.9)	91	(29.0)	14	(9.7)	2475	(8.1)
	少々苦勞するが手に入る	5403	(18.0)	84	(26.8)	26	(17.9)	5513	(18.1)
	ほとんど不可能	6194	(20.6)	48	(15.3)	33	(22.8)	6275	(20.6)
	絶対不可能	15381	(51.3)	84	(26.8)	53	(36.6)	15518	(50.9)
	無回答	655	(2.2)	7	(2.2)	19	(13.1)	681	(2.2)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 224.302, df = 3, p = .000$ )									
全体	簡単に手に入る	5374	(8.7)	218	(28.3)	52	(13.0)	5644	(9.0)
	少々苦勞するが手に入る	10239	(16.6)	179	(23.2)	54	(13.5)	10472	(16.7)
	ほとんど不可能	12822	(20.8)	123	(16.0)	79	(19.8)	13024	(20.7)
	絶対不可能	31879	(51.7)	232	(30.1)	163	(40.8)	32274	(51.4)
	無回答	1328	(2.2)	19	(2.5)	52	(13.0)	1399	(2.2)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 424.116, df = 3, p = .000$ )									

「シンナー遊び」非経験者群では、「ほとんど不可能」「絶対不可能」を選んだ者の合計が男性で60%、女性で62%と半数を超えていたが、「シンナー遊び」経験者群では、「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計は、男性で67%、女性で70%にものぼった。全体では「シンナー遊び」非経験者群では、「ほとんど不可能」「絶対不可能」を選んだ者の合計が61%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計が、逆に68%にものぼっていた。両群間には明らかな違い ( $p < 0.01$ ) が認められた。

## (2) 大麻の入手可能性について

大麻の入手可能性についての回答の分布を表61に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計は、「シンナー

遊び」未経験者群では、男子で25%、女子で26%であり、経験者群では、男子で48%、女子で56%であり、両群には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「シンナー遊び」経験者群での大麻入手可能性の高さが強く示唆された。

また、1998年調査では、入手可能性は男性の方が高かったが、2000年調査及び今回は%上は女性の方が高くなっていた。

## (3) 覚せい剤の入手可能性について

覚せい剤の入手可能性についての回答の分布を表62に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で24%、女子で27%であり、経験者群では、男性で47%、女性で56%であり、両群には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。

この結果は、大麻の入手可能性の値とほぼ同じであり、同時に、「シンナー遊び」経験者群での

表62 覚せい剤の入手可能性

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	簡単に手に入る	3131	(9.9)	122	(27.1)	29	(11.4)	3282	(10.2)
	少々苦勞するが手に入る	4668	(14.8)	90	(20.0)	35	(13.8)	4793	(14.8)
	ほとんど不可能	6303	(19.9)	74	(16.4)	43	(16.9)	6420	(19.9)
	絶対不可能	16872	(53.4)	155	(34.4)	118	(46.5)	17145	(53.1)
	無回答	624	(2.0)	9	(2.0)	29	(11.4)	662	(2.0)
	合計	31598	(100.0)	450	(100.0)	254	(100.0)	32302	(100.0)
( $\chi^2 = 170.284, df = 3, p = .000$ )									
女性	簡単に手に入る	2856	(9.5)	90	(28.7)	18	(12.4)	2964	(9.7)
	少々苦勞するが手に入る	5363	(17.9)	87	(27.7)	24	(16.6)	5474	(18.0)
	ほとんど不可能	5824	(19.4)	44	(14.0)	24	(16.6)	5892	(19.3)
	絶対不可能	15340	(51.1)	85	(27.1)	65	(44.8)	15490	(50.9)
	無回答	620	(2.1)	8	(2.5)	14	(9.7)	642	(2.1)
	合計	30003	(100.0)	314	(100.0)	145	(100.0)	30462	(100.0)
( $\chi^2 = 174.766, df = 3, p = .000$ )									
全体	簡単に手に入る	5994	(9.7)	214	(27.8)	47	(11.8)	6255	(10.0)
	少々苦勞するが手に入る	10041	(16.3)	178	(23.1)	59	(14.8)	10278	(16.4)
	ほとんど不可能	12132	(19.7)	119	(15.4)	67	(16.8)	12318	(19.6)
	絶対不可能	32229	(52.3)	242	(31.4)	183	(45.8)	32654	(52.0)
	無回答	1246	(2.0)	18	(2.3)	44	(11.0)	1308	(2.1)
	合計	61642	(100.0)	771	(100.0)	400	(100.0)	62813	(100.0)
( $\chi^2 = 342.390, df = 3, p = .000$ )									

覚せい剤入手可能性の高さが強く示唆された。

また、1998年調査では、入手可能性は男女で拮抗していたが、2000年調査及び今回は%上は女性の方が高くなっていた。

以上、3つの違法性薬物の入手可能性については、考察で論じたい。

## D. 考察

### 1. 本調査研究の位置づけ

わが国の中学生における「シンナー遊び」の広がりについての調査研究で、地域特性を考慮して行われた大規模なものとしては、当分担研究者の知る限り、1990年から原則2年に1回、当分担研究者らによって実施されてきた千葉県の公立中学校調査<sup>5)12)14)</sup>と、1996年から2年に1回、厚生科学研究費補助金により、当分担研究者らにより継続調査されてきた全国調査10)13)20)に限られている。

その結果、有機溶剤乱用の生涯経験率が明らかになり、有機溶剤乱用経験者群では非経験者群に比べて、日常生活の規則性が有意に乱れており、家族性が希薄（精神的単親家庭<sup>5)</sup>と称した）で、友人関係にも難があることを明らかにしてきた<sup>5)12)14)</sup>。

また、地域的には、有機溶剤の乱用は昼夜人口比と強い相関があり、夜間に人口が多く、昼間に人口の少ない地域ほど経験率が高いこと<sup>19)</sup>、及び、有機溶剤の乱用経験と喫煙経験・喫煙頻度とは強い相関があり<sup>6)</sup>、わが国の中学生では喫煙が有機溶剤乱用へのGateway Drug<sup>3)</sup>となっている可能性が高いことも指摘してきた。

今回の調査研究は、上記一連の調査研究を継続的に発展させたものであり、わが国では薬物乱用に関する第4回目の全国中学生調査である。

### 2. 「シンナー遊び」の広がりについて

今回の調査研究では、「シンナー遊び」の生涯経験率は、男子では1.4%（1年生1.3%、2年生1.4%、3年生1.5%）、女子では1.0%（1年生1.0%、2年生1.1%、3年生1.0%）、全体では1.2%（1年生1.2%、2年生1.3%、3年生1.3%）であった。表63、図1は生涯経験率の年次推移を示しているが、2000年調査との比較では、男子及び全体では減少してはいるものの、女子では増加傾向が見られる結果であった。

一方、千葉県での今回の結果では生涯経験率が増加に転じており、その最大の原因は女子での生涯経験率の急増によると推定できる（表63）。

したがって、全国結果も千葉県での結果も女子

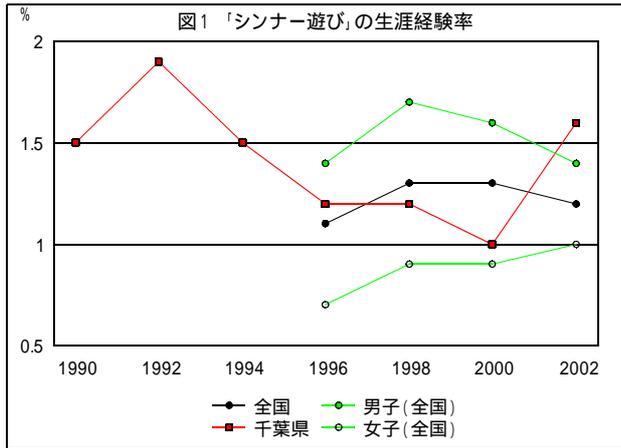
表63 「シンナー遊び」生涯経験率の推移（%）（「無回答」を除いて計算したもの）

#### 千葉県

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1990	2.1	1.2	2.9	2.3	0.9	0.4	0.8	1.7	1.5	0.8	1.9	1.9	12	5,240
1992	2.5	1.8	3.5	2.0	1.2	0.9	1.2	1.5	1.9	1.4	2.4	1.8	14	6,092
1994	1.9	1.1	2.3	2.3	1.1	1.0	1.2	1.1	1.5	1.0	1.8	1.7	15	6,623
1996	1.5	1.4	1.3	1.9	0.8	0.6	0.7	1.2	1.2	1.0	1.0	1.6	8	4,476
1998	1.7	0.8	1.8	2.6	0.6	0.7	0.7	0.3	1.2	0.8	1.2	1.4	9	5,326
2000	1.5	1.1	1.3	2.2	0.5	0.5	0.3	0.6	1.0	0.8	0.8	1.3	7	3,733
2002	1.5	1.2	1.9	1.3	1.7	1.8	2.8	0.7	1.6	1.5	2.4	1.0	7	3,498

#### 全国

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.4	1.2	1.3	1.7	0.7	0.7	0.6	0.9	1.1	0.9	1.0	1.3	108	53,440
1998	1.7	1.2	1.6	2.3	0.9	0.9	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.7	148	71,299
2000	1.6	1.4	1.6	1.9	0.9	0.8	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.5	140	61,675
2002	1.4	1.3	1.4	1.5	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.2	1.3	1.3	149	62,413



での増加という傾向は同じである。社会への女性参画が進むと、薬物乱用の男女差が少なくなる傾向が世界的に認められるが、この女子での増加傾向は危惧されるところである。

一方、1年経験率は、流行の勢いを探る意味では生涯経験率よりは優れているはずである。しかし、個人情報秘密保持という意味でのバイアスは生涯経験率よりは高いと考えられる。そのため、今回を含めて過去3回の調査では、すべて「経験あり」の人数よりは「無回答」の人数の方が多いという結果であった。しかし、今回、千葉県での生涯経験率と千葉県、全国での女子における生涯経験率が増加していることから、「流行の勢い」を探るために、1年経験率の推移を参考として載せた(表64、図2)。

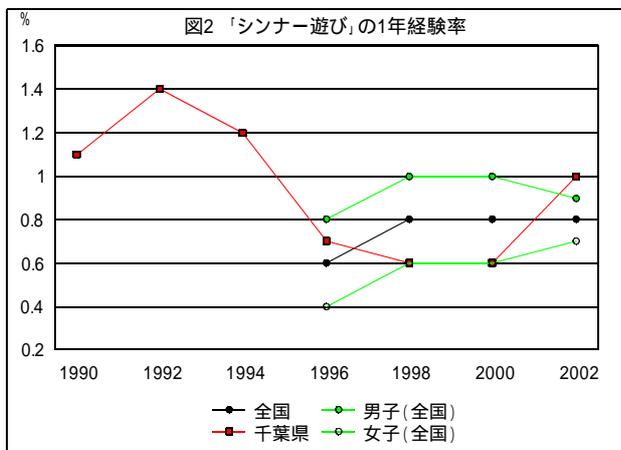


図2及び表64に見るように、1年経験率は千葉県でも全国でも男子では2000年よりは下降気味であるが、女子ではいずれの場合も上昇気味であり、要注意である。したがって、有機溶剤乱用の広がりには、一応治まっているようではあるが、今後、女子での乱用増加につられて、男子での乱用も増加するようであれば、全体での乱用も増加する可能性があり、要注意状態にあると推定される。

ところで、この種の調査で最も問題になるのは、結果の信頼性であろう。この信頼性は、自記式調

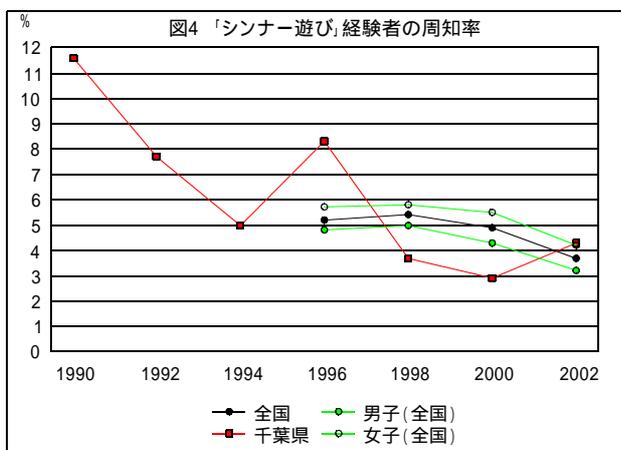
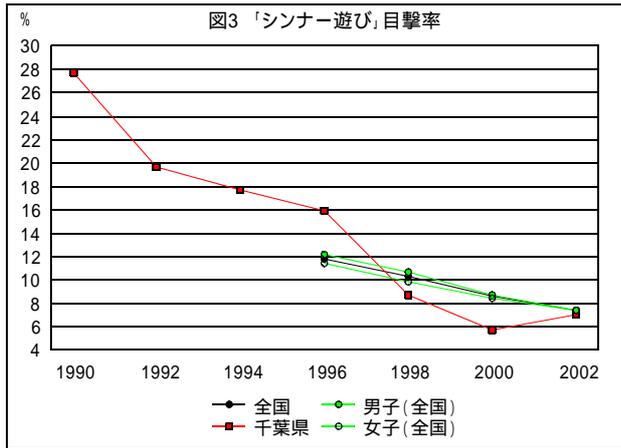
表64 「シンナー遊び」1年経験率の推移 (%) (「無回答」を除いて計算したもの)

千葉県

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1990	1.4	0.8	2.0	1.3	0.8	0.3	0.5	1.3	1.1	0.6	1.3	1.3	12	5,219
1992	1.8	1.3	2.7	1.5	0.9	0.5	1.1	1.1	1.4	0.9	1.9	1.3	14	6,090
1994	1.5	0.8	1.8	1.8	1.0	0.9	1.1	0.9	1.2	0.9	1.5	1.4	15	6,626
1996	0.9	1.1	0.5	1.0	0.5	0.6	0.1	0.7	0.7	0.9	0.3	0.9	8	4,370
1998	1.0	0.4	1.0	1.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.7	0.9	9	5,256
2000	0.9	0.8	0.3	1.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.5	0.3	1.0	7	3,641
2002	0.8	0.5	0.9	1.0	1.1	1.3	1.8	0.3	1.0	0.9	1.3	0.7	7	3,418

全国

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.8	0.6	0.8	1.0	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	108	52,229
1998	1.0	0.7	0.9	1.3	0.6	0.6	0.5	0.7	0.8	0.6	0.7	1.0	148	70,302
2000	1.0	0.8	0.9	1.1	0.6	0.5	0.5	0.7	0.8	0.6	0.7	0.9	140	60,280
2002	0.9	0.8	0.9	0.9	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8	149	60,800



査と同時に、何らかの客観的検査（たとえば尿からの馬尿酸の測定）を実施することによって、初めて明らかになることである。しかしながら、尿検査の実施は、個人の人権上の問題にも関わる難しい方法であり、実施は事実上不可能である。したがって、当研究者らは、類似した方法論にもとづく継続的な調査の結果によるトレンドを見ることが、本調査研究の主目的であると考えている。

同時に「シンナー遊び」の広がりが増減を判断するには、生涯経験率だけではなく、いくつかの関連する指標の結果をも考慮して、総合的に判断する必要があると考えている。

そこで採用しているのが、「シンナー遊び」をこれまでに目撃したことがある者の率（生涯目撃率：表65、図3）、身近に「シンナー遊び」をしている人を知っている者の率（乱用者周知率：表66、図4）、「シンナー遊び」に誘われたことがある者の率（生涯被誘惑率：表67、図5）である。それらを見ると、目撃率、乱用者周知率は確実に減少傾向にあり、有機溶剤乱用の「流行の勢い」が弱くなってきていることが強く示唆される。しかし、生涯被誘惑率は、男子で減少傾向が見られるものの、女子では増加傾向にあり、今回の2002年調査では男女差がなくなってしまっている。これも生涯経験率、1年経験率で述べた特徴と同じであり、

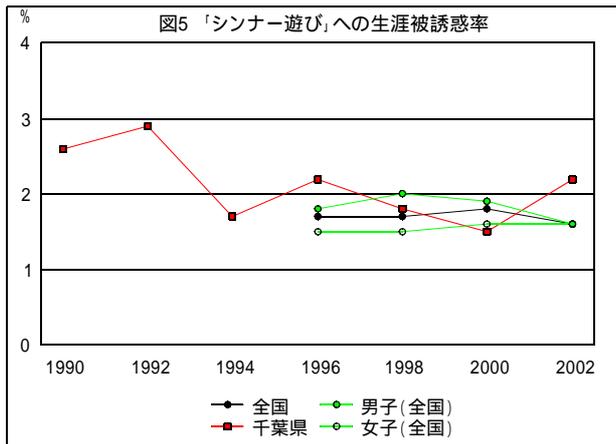
表65 「シンナー遊び」を実際に見たことがある者の率 (%)（「無回答」を除いて計算したもの）

千葉県

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1990	27.5	23.8	26.5	31.7	27.9	22.0	27.9	32.2	27.7	22.9	27.1	32.0	12	5,212
1992	22.1	18.8	22.3	25.2	17.2	13.8	17.1	20.4	19.7	10.4	19.7	22.7	14	6,018
1994	19.1	17.2	19.2	20.6	16.3	12.8	17.4	18.6	17.7	15.1	18.2	19.6	15	6,766
1996	16.5	12.6	17.6	19.0	15.2	11.9	15.0	18.6	15.9	12.3	16.3	18.8	8	4,508
1998	9.9	6.3	9.7	13.4	7.5	6.7	7.6	8.1	8.7	6.5	8.6	10.8	9	5,344
2000	5.7	4.0	6.9	6.0	5.6	6.2	5.0	5.6	5.7	5.1	5.9	5.8	7	2,745
2002	7.0	7.1	7.7	6.1	6.9	6.9	7.2	6.7	7.0	7.0	7.5	6.4	7	3,510

全国

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	12.2	9.9	12.6	14.1	11.4	9.2	12.0	13.1	11.8	9.5	12.3	13.6	108	53,863
1998	10.7	8.8	10.0	13.3	9.8	8.3	9.5	11.5	10.3	8.5	9.7	12.4	148	71,599
2000	8.7	7.5	8.3	10.2	8.4	7.0	7.9	10.2	8.6	7.2	8.1	10.2	140	61,905
2002	7.4	6.3	7.6	8.3	7.4	6.8	7.3	7.9	7.4	6.6	7.5	8.1	149	62,611



要注意傾向を示すものであると考えられる。  
 ちなみに本調査の記載上の「正確さ」を見るため、有機溶剤未経験者における「シンナー遊び」についての気持ちに関し、回答の矛盾を表8に示した。それを見る限り、調査用紙への記載に関しては、本調査は極めて正確に実施されていると推定される。

以上を総合すると、全体では、「シンナー遊び」の「流行の勢い」は確実に弱くなって来ているようだが、生涯経験率、生涯被誘惑率における男女差がなくなってきており、また、千葉県での今回の結果では生涯経験率、目撃率、乱用者周知率、生涯非誘惑率の全てが増加に転じており、特に生

涯経験率の急増は女子での生涯経験率の急増によるものであり(表63)、今後全国でも増加に転じる可能性もあり、手放して喜べる状態とは言い難い。

### 3. 「シンナー - 遊び」と日常生活・家庭生活・友人関係

「シンナー遊び」経験者群と非経験者群との比較では、「起床時間の規則性」(表20)、「就床時間の規則性」(表21)、「朝食の摂取率」(表22)から見た日常生活の規則性、及び「学校生活への思い」(表23)、「クラブ活動の参加状況」(表24)、「親しく遊べる友人の存在」(表30)、「相談事の出来る友人の存在」(表31)において、統計的有意差が認められており、「シンナー遊び」経験者群での日常生活の不規則さ、学校生活への不満、友人関係の希薄さが明かである。

これらの背景には、そもそもの家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられるが、表25~27に見る家族との夕食頻度の差は、今回の調査でも「シンナー遊び」経験者群と非経験者群とで有意差を示していた。

ところで、「父親との夕食頻度(表27)」は、「家族全員での夕食頻度(表25)」よりも低率になっ

表66 身近に「シンナー遊び」をしている人がいると答えた者の割合(乱用者周知率)(%)  
 (「無回答」を除いて掲載したもの)

#### 千葉県

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1990	9.4	5.6	10.4	11.8	14.0	8.2	14.2	18.1	11.6	6.8	12.2	14.9	12	5,197
1992	7.1	4.2	8.9	8.1	8.3	6.1	9.5	9.0	7.7	5.1	9.2	8.6	14	6,072
1994	4.6	3.7	4.2	5.7	5.4	3.3	6.5	6.5	5.0	3.5	5.3	6.1	15	6,756
1996	9.2	7.1	10.9	9.4	7.3	4.8	8.3	8.7	8.3	6.0	9.6	9.0	8	4,493
1998	3.7	2.3	3.6	5.1	3.6	3.5	4.1	3.3	3.7	2.9	3.8	4.2	9	5,331
2000	2.4	1.7	2.2	3.1	3.2	3.4	2.4	3.9	2.9	2.6	2.3	3.6	7	3,742
2002	4.0	3.1	4.7	4.0	4.7	4.6	5.7	3.7	4.3	3.9	5.2	3.9	7	3,508

#### 全国

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	4.8	3.6	4.6	6.4	5.7	3.9	6.2	6.9	5.2	3.7	5.4	6.6	108	53,697
1998	5.0	3.4	4.9	6.6	5.8	4.1	5.8	7.4	5.4	3.7	5.4	7.0	148	71,379
2000	4.3	2.9	4.5	5.5	5.5	4.0	5.1	7.4	4.9	3.4	4.8	6.5	140	61,773
2002	3.2	2.4	3.5	3.7	4.2	3.3	4.4	4.7	3.7	2.8	3.9	4.2	149	62,517

ており、これは明らかに矛盾である。しかも、この矛盾は、これまでの同種の調査<sup>5)10)12)13)14)</sup>でも毎回認められており、中学生の考えの中には、「家族全員での夕食」と言った時、父親の存在は既に除外されている傾向がそれなりにあることを示唆している。つまり、その背景には、父親はいつも帰りが遅いものだという中学生の考え方を伺うことができる。

そもそも、当研究者らは、夕食には「一家団欒」という意味合いがあると考えて調査項目に入れてきた。しかし、この夕食頻度には地域差が大きく、都市部ほど低く、農村部・山間部ほど高い傾向がある。「一家団欒」には、家族としての精神的意味合いも含まれるが、特に都市部における生活様式の多様性を考慮すると、親子の共有時間についての、もう少し直接的な項目が必要であると考えていた。そこで「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？」という項目も1998年より調べている(表28)。その結果、「シンナー遊び」経験者群では非経験者群に比べて、一日3時間以上大人不在で過ごす者が有意に多いことがわかった。結局、夕食頻度の少なさも、親子の共有時間の少なさの一現れとして解釈できる。

また、中学生という年代は、基本的に親との相

談頻度は低いようであるが(表29)、それでも「シンナー遊び」経験者群での相談頻度は有意に低く(表29)、ここでも「シンナー遊び」経験者群における親子の共有時間の少なさが示唆された。

以上により、今回も、「シンナー遊び」経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじめず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」<sup>5)16)18)</sup>が多いという推定が成り立つと考えている。

表11～表12は「シンナー遊び」をしている者について、どのような認識を持っているのかを調べたものである。表11～12では、経験者群と非経験者群での捉え方に、明らかな乖離が認められる。非経験者から見れば、経験者はほとんど「無関係」な人たち(90%以上)であり、経験者から見れば「気持ち理解できる気がする」人たちである割合が非常に高いということである。本研究者らは、「シンナー遊び」経験者にとってわかる気がするという、その気持ちとは、受容感と帰属感を求める「居場所のない子供たち」<sup>5)16)</sup>の共通の思いであろうと推測している。

有機溶剤乱用者への治療的介入の際に、当研究者らは、親の参加なくして子の回復はないと考えており、親子の共有時間を増やすことの重要性を説いているが<sup>5)16)18)</sup>、今回の結果もその有力な根拠

表67 「シンナー遊び」に誘われたことのある率の推移 (有機溶剤乱用の生涯被誘惑率)(%)  
(「無回答」を除いて計算したもの)

千葉県

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1990	3.0	2.0	3.5	3.5	2.2	0.8	2.0	3.3	2.6	1.5	2.8	3.3	12	5,156
1992	3.1	2.1	3.6	3.5	2.7	1.2	3.2	3.7	2.9	1.7	3.4	3.6	14	6,058
1994	2.0	0.3	2.0	3.5	1.5	1.1	1.1	2.1	1.7	0.7	1.5	2.8	15	6,700
1996	2.4	1.0	2.7	3.1	2.0	1.9	1.8	2.4	2.2	1.4	2.3	2.8	8	4,436
1998	2.6	1.0	3.3	3.6	0.9	1.2	0.9	0.7	1.8	1.1	2.1	2.2	9	5,061
2000	1.6	0.8	1.1	2.7	1.3	2.0	0.7	1.4	1.5	1.4	0.9	2.1	7	3,605
2002	1.8	1.8	2.0	1.7	2.6	1.9	3.1	2.7	2.2	1.8	2.6	2.2	7	3,366

全国

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.8	1.2	1.7	2.5	1.5	1.2	1.6	1.9	1.7	1.2	1.6	2.2	108	53,169
1998	2.0	1.0	1.9	2.9	1.5	0.9	1.5	2.0	1.7	0.9	1.7	2.5	148	67,776
2000	1.9	1.3	1.8	2.6	1.6	1.2	1.4	2.2	1.8	1.2	1.6	2.4	140	59,640
2002	1.6	1.1	1.7	1.9	1.6	1.3	1.7	1.9	1.6	1.2	1.7	1.9	149	59,988

表68 有機溶剤乱用による害知識周知率の推移  
(%)

(「無回答」をそのまま生かし、「知っている」と答えた者の割合)

急性中毒死

	男性	女性	全体
1996	59.9	64.6	62.2
1998	65.3	70.1	67.6
2000	60.5	66.8	63.6
2002	61.2	65.8	63.4

歯の腐食

	男性	女性	全体
1996	55.4	52.2	53.8
1998	53.2	51.0	52.2
2000	55.8	55.8	55.8
2002	60.9	62.2	61.5

多発神経炎

	男性	女性	全体
1996	55.9	60.3	58.1
1998	60.4	65.9	63.0
2000	53.1	60.1	56.6
2002	56.2	62.1	59.1

精神病

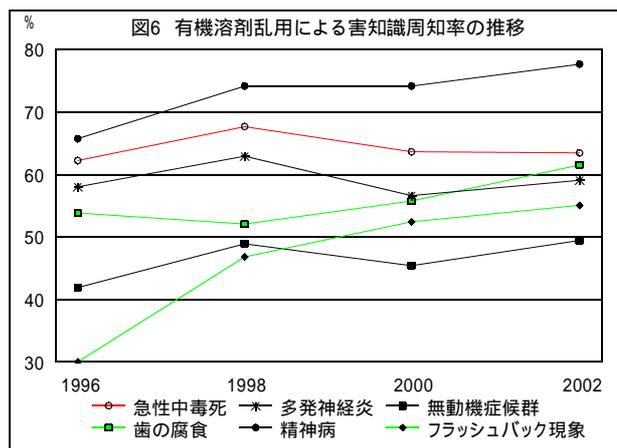
	男性	女性	全体
1996	64.1	67.2	65.7
1998	72.5	75.8	74.1
2000	72.0	76.4	74.2
2002	75.3	80.3	77.7

無動機症候群

	男性	女性	全体
1996	37.6	46.4	41.9
1998	45.3	53.0	49.0
2000	42.3	48.6	45.4
2002	46.6	52.6	49.5

フラッシュバック現象

	男性	女性	全体
1996	29.9	30.3	30.1
1998	47.5	46.3	46.9
2000	51.3	53.6	52.5
2002	53.3	57.1	55.1



である。

しかも、経験論的には、本調査の結果を保護者に紹介することが、保護者の意識変革には重要なようである。

4. 「シンナー遊び」による医学的害

薬物乱用防止には、薬物乱用による諸害をきちんと認識させることが重要である。ところが、「知識」があれば乱用しないかという、そうとも言えない面がある。これまでの調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた<sup>5)10)13)14)20)</sup>。

しかし、今回の調査では、急性中毒死、歯の腐食、多発神経炎に関する男子、精神病に関する男女では、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多く、それ以外の害知識でも、経験者群VS非経験者群で有意差が認められない項目が出てきた。これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、期待される結果であり、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性はある。

しかし、図6は害知識周知率の年次推移を示している。ほとんどの害知識の周知率が増加傾向にあることは好ましい傾向であるが、急性中毒死に関しては下降気味であり、そもそも精神病に関する周知率以外は、決して高い周知率とは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる。

なお、薬物乱用防止教育には、「知識が行動に結びつくとは限らない」という大きな課題が常に存在するわけで、これに関しては、知識教育を行った上で、次の段階として、薬物依存からの回復

の苦しみをドキュメンタリー形式で紹介したビデオ（平成9年度文部省制作「なくした自由」）の活用が期待される。

## 5. 大麻・覚せい剤の乱用経験

そもそも、大麻及び覚せい剤の乱用経験率は、調査結果上、これまで同様に「経験あり」よりは「無回答」の方が数字が大きいため（表53、表57）、参考データとした方が妥当と思われるが、参考データは参考データなりに推移を見る必要がある。

図7、図8に見るように、大麻も覚せい剤も1998年に比べると、生涯経験率は減少傾向にあるが、2000年との比較では、大麻は男女を問わない全体で上昇し、覚せい剤は横ばいであった。しかも、この背景には、大麻でも覚せい剤でも、女子での生涯経験率が上昇していることが最大の要因であると推定される。有機溶剤乱用の生涯経験率でも述べたが、ここでも女子における生涯経験率の上昇が特徴であった。

第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つは、若年層までへの乱用の拡大であるが、その中でも女子における薬物乱用の拡大には注意を払う必要がある。

以上のように大麻・覚せい剤についての生涯経験率はあくまで参考データであるため、利用法の限界はあるが、参考までに有機溶剤・大麻・覚せい剤のいずれかの生涯経験率と大麻・覚せい剤のいずれかの生涯経験率を表71、表72に示した。ここでも、2000年調査との比較では、女子における増加傾向が特徴的である。

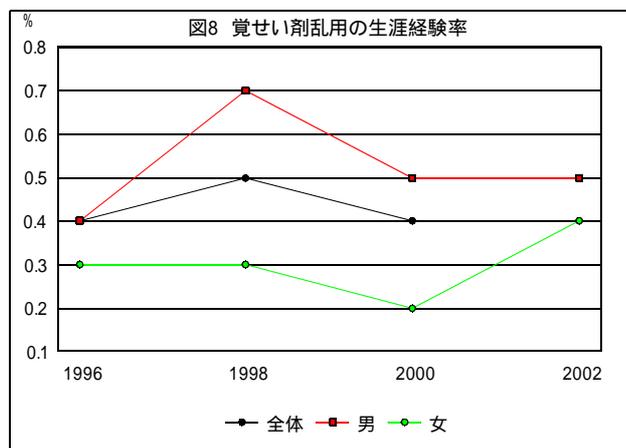
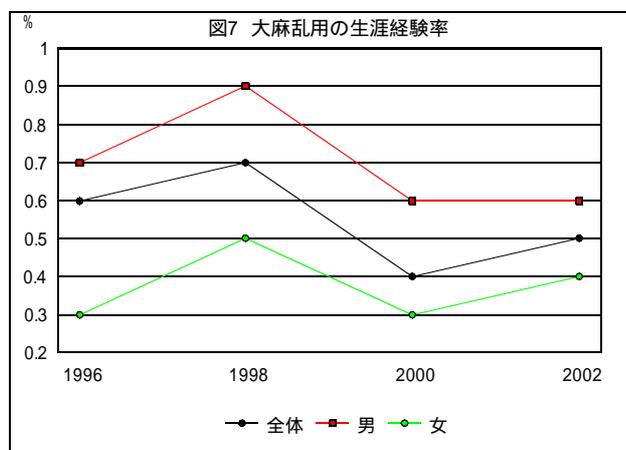


表69 大麻乱用の生涯経験率の推移（％）（「無回答」を除いて計算したもの）

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.7	0.4	0.8	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.4	0.5	0.6	108	53,271
1998	0.9	0.8	0.8	1.0	0.5	0.5	0.4	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	148	70,846
2000	0.6	0.4	0.6	0.7	0.3	0.2	0.4	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	140	61,477
2002	0.6	0.4	0.8	0.7	0.4	0.3	0.6	0.4	0.5	0.4	0.7	0.5	149	62,255

表70 覚せい剤乱用の生涯経験率の推移（％）（「無回答」を除いて計算したもの）

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.4	0.3	0.4	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	108	53,197
1998	0.7	0.5	0.7	0.8	0.3	0.2	0.3	0.4	0.5	0.4	0.5	0.6	148	70,819
2000	0.5	0.5	0.5	0.6	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	140	61,457
2002	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	149	62,181

## 6. 大麻・覚せい剤乱用による医学的害

大麻、覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、表56、表59の通りである。

大麻による精神病・無動機症候群に関しては、1998年調査の女性を除けば、2000年調査までは、男女ともに有機溶剤乱用群の方が周知率が有意に高かった。しかし、今回、その傾向は同じであるが、初めて有機溶剤乱用経験の有無による有意差がなくなった。

また、覚せい剤乱用による精神病・フラッシュバック現象に関しては、男子では1996年調査、1998年調査では有機溶剤乱用群での周知率が有意に高かったが、2000年及び今回は、有意差はないものの有機溶剤乱用非経験者群の方がわずかに周知率は高いというように変化してきている。

これらは、有機溶剤乱用による医学的害の部分で述べた通り、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、期待される結果であり（ただし、表56、表59は大麻ないしは覚せい剤の乱用経験とそれぞれの薬物による害知識をクロスさせたものではないが）、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性もある（図9、図10）。しかし、そもそもの周知率は高いとは言えず、今後一層の薬物乱用防止教育が必要と考えられる。

## 7. 違法薬物の入手可能性の比較

1993年以来、一部の外国人を中心に、大麻および覚せい剤が、大都会では路上で密売されるようになり、第3次覚せい剤乱用期を作り出した<sup>9)</sup>。その影響と思われるが、1996年の1年間に覚せい剤取締法により検挙された高校生の数は対前年度比2.3倍と激増した<sup>9)</sup>。いくら有機溶剤乱用の勢いが鈍ったと言っても、この現実、わが国の薬物汚染状況の深刻化を象徴する以外の何物でもない。

表74は、本調査による違法薬物の入手可能性の比較である。

表73 大麻及び覚せい剤乱用による害知識周知率の推移 (%)

(「無回答」をそのまま生かし、「知っている」と答えた者の割合)

### 大麻乱用による精神病、無動機症候群

	男性	女性	全体
1996	48.3	45.4	46.9
1998	48.0	46.4	47.2
2000	45.8	45.8	45.8
2002	52.4	56.4	54.4

### 覚せい剤乱用による精神病、フラッシュバック現象

	男性	女性	全体
1996	42.5	46.5	44.5
1998	53.9	57.9	55.8
2000	55.4	61.3	58.3
2002	58.0	65.6	61.7

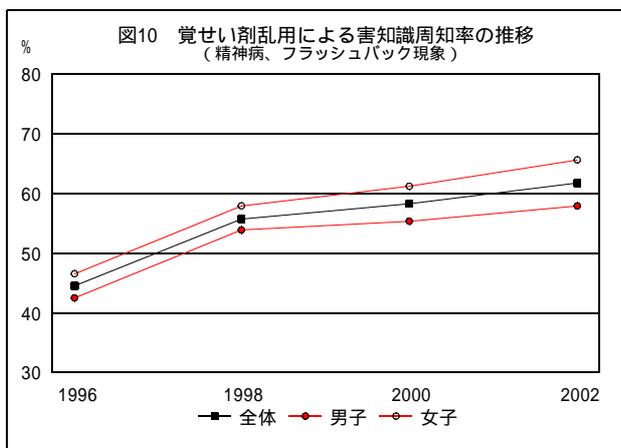
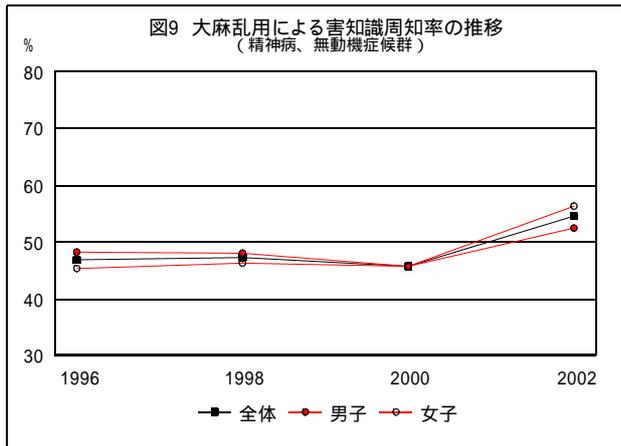
表71 有機溶剤・大麻・覚せい剤のいずれかの乱用の生涯経験率 (%)

(無回答を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.8	1.5	1.8	2.2	1.0	0.9	1.0	1.0	1.5	1.3	1.5	1.7	108	54,136
1998	2.3	1.8	2.1	2.9	1.2	1.2	1.1	1.3	1.8	1.5	1.6	2.2	148	71,245
2000	2.0	1.7	2.0	2.3	1.1	1.0	1.0	1.2	1.5	1.4	1.5	1.8	140	61,481
2002	1.8	1.7	1.9	1.9	1.3	1.2	1.4	1.3	1.6	1.5	1.7	1.6	149	61,668

表72 大麻・覚せい剤のいずれかの乱用の生涯経験率 (%) (無回答を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.8	0.5	0.8	1.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.7	0.8	108	54,116
1998	1.0	0.9	1.0	1.2	0.5	0.5	0.5	0.6	0.8	0.7	0.8	0.9	148	71,245
2000	0.8	0.6	0.7	0.9	0.4	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6	140	61,481
2002	0.8	0.6	0.9	0.8	0.5	0.4	0.6	0.6	0.7	0.5	0.8	0.7	149	61,668



有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その気になれば入手は極めて簡単である。しかし、表74の結果は入手可能を選んだ者が、予想外に少ない。どうやら、「シンナー遊び」のための「有機溶剤」という問いの言葉から、トルエンの入手を想定した者が多かった可能性がある。ただし、大麻、覚せい剤の入手可能性に比べれば、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、常に高い結果であり、実感として納得できるところである。

問題は大麻及び覚せい剤の入手可能性である。男女に限らず、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が大麻でも覚せい剤でも50%を超えているが(表61、表62)、有機溶剤乱用経験者群では、大麻でも覚せい剤でも男子で47~48%、女子で56%の者が入手可能(「簡単に手に入る」と「少々苦労するが手に入る」を選択した者の合計)を選択していた(表61、表62)。

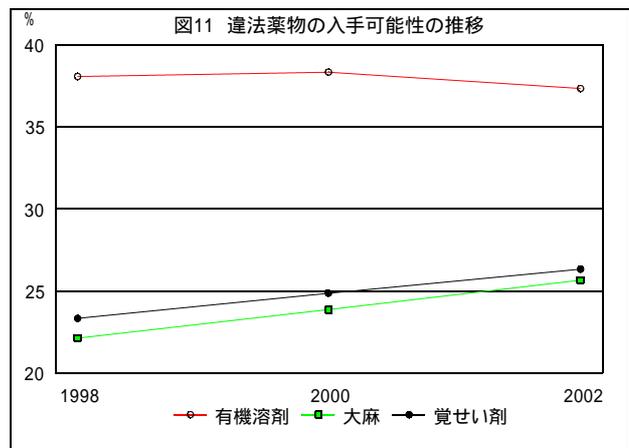
これらの結果は、わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用するということは、大麻、覚せい剤

表74 違法薬物の入手可能性の比較  
(「簡単に手に入る」と「少々苦労するが手に入る」を選択した者の合計)

有機溶剤			
	男性	女性	全体
1998	41.6	34.4	38.1
2000	41.1	35.6	38.4
2002	38.5	36.4	37.4

大麻			
	男性	女性	全体
1998	23.2	21.1	22.2
2000	24.1	23.8	23.9
2002	25.1	26.2	25.7

覚せい剤			
	男性	女性	全体
1998	24.0	22.6	23.4
2000	24.4	25.5	24.9
2002	25.0	27.7	26.4



が身近なものになるという特徴を示唆している。

また、図11は有機溶剤乱用経験の有無に関わらず、全体での違法薬物の入手可能性の推移を示している。大麻、覚せい剤の入手可能性は確実に増大しているものであり、さらに表74に示したとおり、ここでも女子における増加が特徴的である。

## 8. 薬物乱用に対する法の遵守性

わが国の規制薬物乱用が、多くの国に比べて少ない背景には、国民の法に対する遵守性の高さが

あるのではないかと本研究者らは推定している。

喫煙については非喫煙群全体の10.2% (表34)の者が「少々ならかわまない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の3% (表9)に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の2% (表55)であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。(覚せい剤に関しては、尋ねていない)

しかも、表54と表58に示したように、「シンナー遊び」の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験とは、強い結びつきがあり、わが国では依然として有機溶剤が大麻・覚せい剤への「ゲイトウェイ・ドラッグ」となっている可能性が強く示唆される<sup>3)</sup>。

## 9. 「ゲイトウェイ・ドラッグ」としてのタバコとアルコール

中学生における喫煙及び飲酒が「シンナー遊び」への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高いことは以前より指摘してきたが<sup>3)5)6)14)</sup>、表50及び表52の結果は、大人が同伴しない飲酒と「シンナー遊び」との結びつきの強さと、喫煙経験と「シンナー遊び」との結びつきの強さを再確認させるものである。この背景には、有機溶剤乱用同様に、家庭環境、「仲間」関係等、薬物乱用の背後にある人間関係が大きな要因となっていると推定できる。

中学生における喫煙・飲酒・薬物乱用防止を行う際には、喫煙・飲酒・薬物乱用といった表面的行為に目を奪われすぎることなく、その背後に潜む家庭環境、「仲間」関係等の人間関係に目を注ぐことが重要であろう<sup>16)</sup>。

## E. 結論

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料に供するために、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。調査期間は、2002年10月中(一部11~12月中)であり、層別1段集落抽出法によ

り選ばれた全国210校の全生徒を対象に、自記式調査を実施した。その結果、149校(対象校の71.0%)より、62,900人(対象校210校の全生徒の57.7%)の回答を得た。有効回答数は62,813人(対象校210校の全生徒の57.6%)であった。

ただし、回答が得られなかった県が3県あり、都道府県毎の回答率には、未だにばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

男子では1.4%(1年生1.3%、2年生1.4%、3年生1.5%)、女子では1.0%(1年生1.0%、2年生1.1%、3年生1.0%)、全体では1.2%(1年生1.2%、2年生1.3%、3年生1.3%)の者が、これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した。

この結果は、男女合わせた全体では、1996年に実施した第1回全国調査の結果よりは0.1%高い値であるが、1998年及び2000年調査よりは0.1%低い値であった。性別では、男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用の目撃率に関しては男性、女性、全体の全てにおいて、1996年以降、着実に低下しており(全体で11.8%から7.4%)、「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから着実に減少していた(全体で5.4%から3.7%)。また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は男子では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。

以上を総合すると、男女合わせた全体では、有機溶剤乱用の勢いは、弱くなってきていると考えられる。しかし、女子における乱用の拡大傾向が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の

共有時間が少ない傾向がうかがわれた。

結局、有機溶剤経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。

これまでの一連の本調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、急性中毒死、歯の腐食、多発神経炎に関する男子、精神病に関する男女では非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多く、それ以外の害知識でも、経験者群VS非経験者群で有意差が認められない項目が出てきた。これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、「本来あるべき姿」であり、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性がある。

しかし、「害を知らない者が乱用しやすい」とばかりは言えない面があるのが薬物乱用の世界であり、同時に、ほとんどの害知識の周知率が増加傾向にあるにも関わらず、急性中毒死の周知率は下降気味であり、そもそも精神病に関する周知率以外は、決して高い周知率とは言えない現状が明らかになった。薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

大麻の生涯経験率は、男子で0.6%、女子で0.4%、全体で0.5%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.5%、女子で0.4%、全体で0.4%であった。

これは大麻に関しては男女を問わない全体では2000年に比べて0.1%の上昇であり、覚せい剤に関しては、2000年と同じ結果であることを意味する。

性別では、男子では大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は2000年と変化がなかったが、女子では両薬物に関して共に増加していた。

有機溶剤の場合と同様に、女子における大麻・覚せい剤乱用の今後が危惧される結果であった。

ただし、結果の数字自体が、無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることはできない限界はある。

大麻及び覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、増加傾向にあり歓迎されるが、そもそもの周知度自体が高いとは言えず、薬物乱用防止

教育の一層の推進が望まれる結果であった。

違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その入手可能性への認識は高かった。大麻、覚せい剤の入手可能性は1998年以降、着実に増加していた。これらは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果（入手可能性の高さ）であった。しかも、ここでも女子における大麻・覚せい剤の入手可能性の増加が特徴的であり、今後が危惧される結果であった。

また、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が大麻でも覚せい剤でも50%を超えていたが、有機溶剤乱用経験者群では、大麻でも覚せい剤でも男子で47～48%、女子で56%の者が入手可能を選択していた。わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用すると言うことは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を示唆していた。

薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響すると考えられる。喫煙については非喫煙群全体の10.2%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の3%に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の2%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。

また、有機溶剤乱用の経験と、大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、同時に、喫煙経験と有機溶剤乱用経験との間にも強い結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

#### 謝辞

本調査研究にご協力いただいた多くの学校関係者および生徒、ならびに、本調査の実施に関して御尽力いただいた多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

また、調査用紙回収後の困難な資料整理に協力していただいた、東京ダルク、日本ダルクの協力者に感謝いたします。

## 参考文献

- 1)尾崎 茂、和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田 清）. pp.77-118 . 2001 .
- 2) 和田 清,福井 進:覚せい剤精神病の臨床症状--覚せい剤使用年数との関係-- . アルコ - ル研究と薬物依存 25:143-158,1990.
- 3) 和田 清：“Gateway Drug”概念について . 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34(2)： 95-106, 1999.
- 4) Wada,K., Fukui, S.: Demographic and Social Characteristics of Solvent Abuse Patients in Japan. The American Journal on Addictions 3:165-176, 1994.
- 5) Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.
- 6) Wada, K, Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46: 137-145, 1997.
- 7) Wada, K, Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.
- 8) 和田 清：中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999.
- 9)和田 清：薬物乱用の現状と歴史 . 神経精神薬理 19: 913-923, 1997.
- 10) 和田 清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究 . 平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究(2) . pp.21-60 . 1997 .
- 11) 文部省大臣官房調査統計企画課：全国学校総覧2002年版 . 原書房 . 東京 . 2002.
- 12)Wada, K.: Prevalence of Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan and Their Background Lifestyle: Result of Chiba Prefecture Survey 1994. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 37: 41-56, 2002.
- 13)和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査 . 平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田 清）. pp.19-83 . 1999 .
- 14) 和田 清：中学生における有機溶剤乱用の実態とその生活背景 - 1992年千葉県調査より - . 学校保健研究 43:26-38, 2001.
- 15)和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究 . 平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成5年度研究成果報告書 . pp.27-54. 1994.
- 16) 和田 清：有機溶剤乱用発生の社会的背景--青少年にとり有機溶剤とは何か-- . アルコール医療研究 8: 179-184, 1991.
- 17)和田 清：中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌34: 36-48, 1999.
- 18)和田 清：有機溶剤乱用と家族 . 精神保健研究 7: 13-17, 1994.
- 19)Wada, K.: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inh

alation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 36: 124-141, 2001.

20) 和田 清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾  
：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．  
平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田清）. pp.15-76 . 2001.

分担研究者らによる一連の中学生調査に関する報告書、論文一覧

		報告書	論文
1990年	千葉県12校	福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物乱用・依存の実態と動向に関する研究 - 中学生における「シンナー遊び」の実態とその背景 - .(班長)佐藤光源 . 厚生省「精神・神経疾患研究委託費」2指-13 . 薬物依存の発生機序と臨床及び治療に関する研究 . 平成2年度研究成果報告書 . pp.27-34, 1991.	Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and backgroundlife style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.  Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of tobacco smoking among junior high school students in Japan and backgroundlife style of users. Addiction 89: 331-343, 1994.  Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46:137-145, 1997.  Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of AlcoholUse and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.  和田 清：中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999.
1992年	千葉県14校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究 . 平成4年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成4年度研究成果報告書 . pp25-64, 1993. 3.	Wada, K,: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 36: 124-141, 2001.  和田 清：中学生における有機溶剤乱用の実態とその生活背景 - 1992年千葉県調査より - . 学校保健研究 43 :26-38, 2001.
1993年	関東地方14校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査	Kikuchi, A., Wada, K.: Factors Associated with Volatile Solvent Use

		研究．平成5年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成5年度研究成果報告書．pp27-54, 1994. 3.	among Junior High School Students in Kanto, Japan. Addiction (accepted)
1994年	千葉県15校 中国地方U市 12校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成6年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成6年度研究成果報告書．pp35-60, 1995. 3.	Wada, K.: Prevalence of Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan and Their Background Lifestyle: Result of Chiba Prefecture Survey 1994. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 37: 41-56, 2002.
1996年	全国108校	和田 清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）. pp.21-60 . 1997 .	
1998年	全国148校	和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田 清）. pp.19-83 . 1999 .	
2000年	全国140校	和田 清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田 清）. pp.15-76 . 2001 .	
2002年	全国149校	今回の報告書	

# 飲酒・喫煙・薬物乱用についての意識・実態調査

(第6版-02)

飲酒・喫煙・薬物乱用は、青少年の心と体の両面に様々な害を及ぼします。  
この調査は、今日の中学生在が飲酒・喫煙・薬物乱用をどの様に考えており、また、実際にどのくらいの人が飲酒・喫煙・薬物乱用を経験しているかを調べ、今後の対策の参考にします。

回答者がわからないように以下のように配慮されています。

- ・この調査用紙には、氏名など個人を見つけ出せそうなものを書くところはありません。
- ・先生には、必要に応じて、生徒の質問に答えていただきますが、必要以上に生徒の所には行かず、生徒が書きやすいように努めていただきます。
- ・書き終わったら、配られた封筒に用紙を入れて封をし、先生の持っている大きな袋に封筒ごと入れてください。
- ・調査用紙は、封を切られることなく（学校の先生などに結果を知られることなく）、下記の研究室に運ばれ、研究室で開封し、厳重に保管され、研究以外の目的には使用しません。
- ・調査結果も、集められた結果を全体でまとめて処理します。個人が特定されることはありません。

各質問に対する回答は、ことわりがない限り、自分の場合に最も近いものの数字を一つだけ、丸で囲んでください。

実施機関：国立精神・神経センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 千葉県市川市国府台1-7-3 TEL.047-372-0141

- 
- (質問1) あなたは男性ですか、女性ですか？ 1. 男性 2. 女性
- (質問2) あなたは中学何年生ですか？ 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生
- (質問3) あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ
- (質問4) あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ
- (質問5) あなたは、毎朝、朝食を食べていますか？ 1. ほとんど毎日食べている  
2. 時々食べる  
3. ほとんど食べない
- (質問6) あなたにとって、学校生活は次のどれですか？ 1. とても楽しい。  
2. どちらかといえば楽しい  
3. あまり楽しくない  
4. まったく楽しくない
- (質問7) あなたはクラブ活動（部活）に参加していますか？ 1. 積極的に参加している  
2. 消極的に参加している  
3. 参加していない
- (質問8) あなたは、母親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない 7. 母親がいない( たんしんふにん 単身赴任、死別、別居、離婚など)
- (質問9) あなたは、父親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない。 7. 父親がいない( たんしんふにん 単身赴任、死別、別居、離婚など)
- (質問10) あなたは、夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない

(質問11) あなたは、学校・塾・習い事・運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？

- 1 . なし、あるいは、ほとんどなし      2 . 1時間未満      3 . 1時間以上2時間未満  
4 . 2時間以上3時間未満      5 . 3時間以上

(質問12) あなたは、親しく遊べる友人がいますか？      1 . いる      2 . いない

(質問13) あなたは、相談事のできる友人がいますか？      1 . いる      2 . いない

(質問14) あなたは、悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？

- 1 . よく相談する方である      4 . ほとんど相談しない方である  
2 . どちらかと言えば相談する方である      5 . 親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)  
3 . どちらかと言えば相談しない方である

(質問15) あなたは、これまでに一回でも、タバコを吸ったことがありますか？

(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

- 1 . 吸ったことがない      2 . 10歳以下      3 . 11歳      4 . 12歳      5 . 13歳  
6 . 14歳      7 . 15歳以上      8 . 吸ったことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問16) あなたは、この1年間で、タバコを吸ったことがありますか？

- 1 . 一度も吸わなかった      2 . 1年間で1~数回吸った      3 . 月に数回吸った  
4 . 週に数回吸った      5 . ほとんど毎日吸った

(質問17) あなたは、健康面から、喫煙をどう思いますか？      1 . 害ばかりで、良い面はないと思う  
2 . 害もあるが、良い面もあると思う  
3 . 害よりも、良い面の方が多いと思う

(質問18) 未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？

- 1 . 法律で禁じられているから、吸うべきでないと思う  
2 . 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う  
3 . 法律で禁じられてはいるが、全然かまわないと思う

(質問19) あなたは、未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？

- 1 . 当然だと思う  
2 . しかたのないことだと思う  
3 . 成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う  
4 . そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問20) あなたは、これまでに、下記の時に、一回でも、アルコール(ビール、日本酒、焼酎、ワイン、ウィスキー - など)を飲んだことがありますか？

(いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。)

- 1 . 飲んだことがない  
2 . 冠婚葬祭(結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など)の時に飲んだことがある  
3 . 家族での食事などの時に、家族といっしょに飲んだことがある  
4 . クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある  
5 . カラオケボックス、居酒屋、飲み屋などで、仲間と飲んだことがある  
6 . 自分や誰かの部屋で、仲間と飲んだことがある  
7 . 一人で飲んだことがある

(質問21) あなたは、上記のいずれかの機会、初めてアルコールを飲んだ(なめただけの場合は、含めないで下さい。 ) のは、何歳の時ですか？

- 1 . 飲んだことがない      2 . 10歳以下      3 . 11歳      4 . 12歳      5 . 13歳  
6 . 14歳      7 . 15歳以上      8 . 飲んだことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問22) あなたは、この1年間に一回でも、アルコールを飲んだことがありますか？

(飲んだことのある機会をいくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。)

1. 飲んだことがない
2. 冠婚葬祭（結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など）の時に飲んだことがある
3. 家族での食事などの時に、家族といっしょに飲んだことがある
4. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
5. カラオケボックス、居酒屋、飲み屋などで、仲間と飲んだことがある
6. 自分や誰かの部屋で、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問23) あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度でアルコールを飲みましたか？

1. 一度も飲まなかった
2. 1年間で1~数回飲んだ
3. 月に数回飲んだ
4. 週に数回飲んだ
5. ほとんど毎日飲んだ

(質問24) あなたは、健康面から、飲酒をどう思いますか？

1. 害ばかりで、良い面はないと思う
2. 害もあるが、良い面もあると思う
3. 害よりも、良い面の方が多いと思う

(質問25) 未成年者の飲酒は禁止されていますが、あなたは、未成年者の飲酒をどう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、飲むべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、時と場合に応じては、かまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、全然かまわないと思う

(質問26) あなたは、未成年者の飲酒禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問27) あなたは、「シンナ - 遊び」をしているところを実際に見たことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問28) あなたの身近に、「シンナ - 遊び」をしている人がいますか？

1. いない
2. いる

(質問29) あなたは、「シンナ - 遊び」に誘われたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問30) 「シンナ - 遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？

1. 関心がない
2. 見てみたい
3. 試してみたい
4. 経験がある

(質問31) あなたは、「シンナ - 遊び」をしている人について、どう思いますか？

1. 自分には無関係の人だと思う
2. 「シンナ - 遊び」をする気持ちが理解できる気がする
3. 親しみを感じる

(質問32) あなたは、「シンナ - 遊び」をしている人と親しくなることについて、どう考えますか？

1. 親しくなりたくない
2. 「シンナ - 遊び」だけで決めたくはない
3. すでに親しい

(質問33) あなたは、これまでに一回でも、「シンナ - 遊び」を経験したことがありますか？  
(ある場合は、初めて経験した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問34) あなたは、この1年間に一回でも、「シンナ - 遊び」をしたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問35) 「シンナ - 遊び」は法律で禁止されていますが、あなたは「シンナ - 遊び」について、どう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う

(質問36) あなたは、法律で「シンナ - 遊び」を禁止しているのをどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 麻薬・覚せい剤とちがって、シンナ - くらい禁止しなくてもいいのではないかと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問37) あなたは、「シンナ - 遊び」で死亡すること(急性中毒死)があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問38) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問39) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること(多発神経炎)があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問40) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何もないのに物が見えたり(幻視)、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり(幻聴)、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込んだり(妄想)する状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問41) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる(無動機症候群)を知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問42) あなたは、「シンナ - 遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナ - 遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること(フラッシュバック)があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問43) あなたは、「シンナー遊び」をしている人たちは、どうして「シンナ - 遊び」するのだと思いますか？(いくつ選んでもけっこうです。)

1. 本人に問題があるから
2. 家庭に問題があるから
3. 学校に問題があるから
4. 社会に問題があるから

(質問44) あなたは、これまでに一回でも、大麻(マリファナ、ハッシュも同じものです)を吸ったことがありますか？(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問45) あなたは、大麻を吸うことをどう思いますか？

1. 吸うべきではないと思う
2. 麻薬・覚せい剤とちがって、少々ならかまわないと思う
3. まったくかまわないと思う

(質問46) あなたは大麻を吸うと、上記の質問40や質問41と同じ精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問47) あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤(スピード、エスも同じものです)を使用したことがありますか？(ある場合は、初めて使用した時の年齢を選んでください。)

- 1 . 経験がない    2 . 10歳以下    3 . 11歳    4 . 12歳    5 . 13歳    6 . 14歳  
7 . 15歳以上    8 . 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問48) 覚せい剤を使うと、上記の質問40と同じ精神病状態になりやすく、また質問42のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？

- 1 . 知っている    2 . 知らない

(質問49) あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- 1 . 簡単に手に入る    2 . 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3 . ほとんど不可能だ    4 . 絶対不可能だ

(質問50) あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- 1 . 簡単に手に入る    2 . 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3 . ほとんど不可能だ    4 . 絶対不可能だ

(質問51) あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- 1 . 簡単に手に入る    2 . 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3 . ほとんど不可能だ    4 . 絶対不可能だ

ご協力ありがとうございました。

## 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（2002年） - 要約版 -

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センタ - 精神保健研究所薬物依存研究部長  
研究協力者 畢 穎 同上（流動研究員）、 鈴木紀美子（研究助手）  
尾崎米厚 鳥取大学医学部 衛生学教室 助教授  
勝野真吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料に供するために、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。調査期間は、2002年10月中（一部11～12月中）であり、層別1段集落抽出法により選ばれた全国210校の全生徒を対象に、自記式調査を実施した。その結果、149校（対象校の71.0%）より、62,900人（対象校210校の全生徒の57.7%）の回答を得た。有効回答数は62,813人（対象校210校の全生徒の57.6%）であった。

ただし、回答が得られなかった県が3県あり、都道府県毎の回答率には、未だにばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

男子では1.4%（1年生1.3%、2年生1.4%、3年生1.5%）、女子では1.0%（1年生1.0%、2年生1.1%、3年生1.0%）、全体では1.2%（1年生1.2%、2年生1.3%、3年生1.3%）の者が、これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した。この結果は、男女合わせた全体では、1996年に実施した第1回全国調査の結果よりは0.1%高い値であるが、1998年及び2000年調査よりは0.1%低い値であった。性別では、男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後は危惧される結果であった。

有機溶剤乱用の目撃率に関しては男性、女性、全体の全てにおいて、1996年以降、着実に低下しており（全体で11.8%から7.4%）「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから着実に減少していた（全体で5.4%から3.7%）。また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は男子では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。

以上を総合すると、男女合わせた全体では、有機溶剤乱用の勢いは、弱くなってきていると考えられる。しかし、女子における乱用の拡大傾向が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の共有時間が少ない傾向がうかがわれた。

結局、有機溶剤経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。

これまでの一連の本調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、急性中毒死、歯の腐食、多発神経炎に関する男子、精神病に関する男女では非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多く、それ以外の害知識でも、経験者群VS非経験者群で有意差が認められない項目が出てきた。これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、「本来あるべき姿」であり、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性もある。

しかし、「害を知らない者が乱用しやすい」とばかりは言えない面があるのが薬物乱用の世界であり、同時に、ほとんどの害知識の周知率が増加傾向にあるにも関わらず、急性中毒死の周知率は下降気味であり、そもそも精神病に関する周知率以外は、決して高い周知率とは言えない現状が明

らかになった。薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

大麻の生涯経験率は、男子で 0.6%、女子で 0.4%、全体で 0.5%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で 0.5%、女子で 0.4%、全体で 0.4%であった。これは大麻に関しては男女を問わない全体では 2000 年に比べて 0.1%の上昇であり、覚せい剤に関しては、2000 年と同じ結果であることを意味する。性別では、男子では大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は 2000 年と変化がなかったが、女子では両薬物に関して共に増加していた。有機溶剤の場合と同様に、女子における大麻・覚せい剤乱用の今後が危惧される結果であった。ただし、結果の数字自体が、無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることはできない限界はある。

大麻及び覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、増加傾向にあり歓迎されるが、そもそもの周知度自体が高いとは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その入手可能性への認識は高かった。大麻、覚せい剤の入手可能性は 1998 年以降、着実に増加していた。これらは、第 3 次覚せい剤乱用期を象徴するような結果（入手可能性の高さ）であった。しかも、ここでも女子における大麻・覚せい剤の入手可能性の増加が特徴的であり、今後が危惧される結果であった。また、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が大麻でも覚せい剤でも 50%を超えていたが、有機溶剤乱用経験者群では、大麻でも覚せい剤でも男子で 47 ~ 48%、女子で 56%の者が入手可能を選択していた。わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用するということは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を示唆していた。

薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響すると考えられる。喫煙については非喫煙群全体の 10.2%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の 3%に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の 2%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。

また、有機溶剤乱用の経験と、大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、同時に、喫煙経験と有機溶剤乱用経験との間にも強い結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

